

事項七 イタリア・ギリシャ 紛争(コルフ島砲撃事件) 関係

三三三 八月三十日 在ギリシャ国諸井臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ギリシャ・アルバニア国境画定伊国委員惨殺
ノ件

第四三号 (八月三十一日接受)

八月二十七日朝「アルバニア」国境ヲ距ル四「キロメートル」地点ニ於テ希臘「アルバニア」国境画定委員ノ分乗セシ自動車中伊国委員ヲ乗セシモノ何者ニカ要撃セラレゼナル Tellini, Sukoru 軍医、Konati 大尉外二名残殺セラレ伊国公使ハ二十九日希国ニ対シ逮捕賠償等ニ付強硬ナル要求ヲ提出シ二十四時間内ニ回答ヲ求メ政府ハ直チニ搜索ノ為ニ非常処置ヲ執ル等本件ノ成行ハ一般ニ注目セラレツツアリ

三三四 八月三十一日 在仏国佐藤臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

伊国委員暗殺ニ関シ大使會議ノ名ニ於テ伊国
政府ニ弔意申入レノ件

第五〇〇号 (九月一日接受)

本使発伊太利宛電報第三三四号

希臘「アルバニア」国境画定伊国委員暗殺事件ニ関シ大使會議ノ名ニ於テ伊国政府ヘ弔意ヲ申入ル事ト成リタルニ付在伊仏国大使ヨリ何等申出デ有リタル節ハ可然御取計有度シ

外務大臣、及希臘ヘ転電セリ

三三五 八月三十一日 在伊国落合大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

伊国委員殺害ニ関シ伊国政府ヨリ抗議提出ノ
件

第一七一号 (九月六日接受)

二十七日朝「アルバニア」国境画定委員ニ聞ク Tellini 少将、軍医少佐一名中尉一名及通訳ハ自動車ニテ「ジャニナサンチカランタ」街道ヲ通行中国境付近(希国境内)ニ於テ暴徒ノ襲撃ヲ受ケ前記四名及運転手共悉ク銃殺セラレタル本件ニ関シ伊国政府ハ其ノ犯人ノ希国人ナルヲ認め二十

八日在雅典伊国公使ヲシテ次ノ如キ嚴重抗議ヲ提出セリ
(一)希国最高軍憲ハ伊国公使館ニ対シ最丁重ナル公式謝罪ノ意ヲ表スルコト

(二)雅典ニ於テ犠牲者ノ葬儀ヲ行ヒ希国政府ノ大臣全部会葬スルコト

(三)「ビエロ」港内ニ於テ希国艦隊ハ伊国国旗ヲ掲揚シ伊国艦隊ニ対シ二十一発ノ弔砲ヲ発スルコト

(四)希国当局ハ本書承諾ノ日ヨリ五日間内ニ犯罪調査ヲ完了スルコト

(五)犯人全部ヲ死刑ニ処スルコト

(六)本書提出ノ日ヨリ五日間内ニ五千万「リラ」ノ賠償ヲ為スコト

然シテ希国回答ノ期限ハ三十日午後八時迄ナリト云フ

三三六 八月三十一日 在仏国佐藤臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

伊国最後通牒ヲギリシャニ発送シ且大使會議
モ同国ニ警告ヲ発スルコトナリタル旨報告
ノ件

第五〇二号 (九月一日接受)

七 イタリア・ギリシャ紛争(コルフ島砲撃事件) 関係 三三六 三三七

希臘「アルバニア」国境画定伊国委員五名八月二十七日希臘国内ニ於テ虐殺セラレタル為伊国ハ最後通牒ヲ希臘ニ送リ希臘政府ノ謝罪、暴徒ノ処罰及五千万「リラ」ノ要償ヲ請求シタルガ前記国境画定委員会ハ一九二一年十一月五日ノ大使會議決議ニ依リテ組織セラレタル關係上大使會議ヨリモ希臘政府ニ警告ヲ発スル事ニ決シ大使會議ノ名ニ於テ速ニ事件ノ真相ヲ調査スル事並制裁ハ後日ニ留保スベキ旨ノ警告申入方在雅典英、仏、伊公使宛電報シタリ本邦ハ「アルバニア」国境画定委員会ニハ当初ヨリ委員ヲ出ダサズ又本年四月諸国境問題ヨリハ手ヲ引キタル關係上本警告ニハ参加セザル事トセリ

三三七 八月三十一日 在伊国大使館付小川陸軍武官ヨリ
河合参謀総長宛(電報)

ギリシャ側回答不十分ナリトシ伊国艦隊コル
フ島占領ニ着手シタル旨報告ノ件

伊電第八二号 (九月六日陸軍省到着)

「アルバニア」「ギリシャ」国境画定委員タル伊国將校ノ暗殺ニ関シ伊国政府ノ最後ノ通牒ニ対スル希国政府ノ回答不

充分ナリトシ伊国ハ其要求貫徹ノ為メ今三十一日朝以来直接行動ヲ開始シ其船隊ハ「コルフ」島占領ニ着手セルカ如シ
 情況ノ大要

八月下旬「アルバニア」希国国境画定委員一行ノ該方面山地前進中一群ノ凶漢ノ奇襲スル所トナリ伊国委員長中將以下数名射殺セラル伊国ハ之ヲ希国ノ処為トナシ最後通牒（賠償金五千万利、犯人ノ死刑、伊国艦隊ニ対シ礼砲要求）ヲ送リタルモ主ナルモノハ希国ノ拒絶スル所トナレリ

三二八 九月一日 在伊国落合大使ヨリ
 山本外務大臣宛（電報）

落合大使伊国官房長ニ事件ノ真相問合並ニ弔

意表明ノ件

第一七二号

（九月六日接受）

往電第一七一号ニ関シ

該件ハ伊国全体ノ憤怒ヲ惹起シ国内数ヶ所ニ於テ希臘反對ノ示威運動アリ新聞ノ論調モ著シク劇烈ナルモノアリ在當地英國代理大使ハ本国政府ノ名ニ於テ又仏、米、白、独大使其他多数外国使臣伊国政府ニ「コンドレアンス」ヲ述べタル由ナルガ本使ハ別電第一七三号ノ序ヲ以テ本件ノ真相

第一七四号

（九月六日接受）

往電第一七一号ニ関シ

希国側回答ハ三十一日午後発表セラレタルガ其要点左ノ通り
 希国政府ハ本事件ノ有責者ナリトノ伊国政府ノ断定ヲ不当ナリト思考シ伊国要求ノ第四、五、六ノ三点ハ希国ノ名誉及主権ヲ害スルモノト認メ承諾スル能ハズ但本件ハ希国領土内ニ於テ而カモ國際的使命ヲ有スル友邦臣民ニ加ヘラレタル慘事ナルヲ以テ希国政府ハ伊国公使館及国旗ニ対シ謝罪ノ意ヲ表スベク犠牲者ノ葬儀ハ雅典ニ於テ行ヒ各大臣会葬スベシ乍併犠牲者ノ遺族ニ対スル賠償ハ公平ナル方法ヲ以テ協議スルコトト致スベシ云々

右回答ニ関シ伊国政府ハ在外使臣ニ対シ次ノ如キ通牒ヲ発セリ
 「伊国ノ正当ナル要求ニ対スル希国ノ回答ハ實質上我要求ノ全部ヲ拒否セルモノナリ斯クノ如キ不当ナル希国ノ態度ハ伊国ヲシテ更ニ希臘ノ責任感ヲ惹起セシメント欲シ我軍隊ニ「コルフ」島上陸ヲ命ジタリ右臨時的手段ニ依リ戦争的行為ヲ為サントスルニアラズ只伊国ノ体面ヲ保チ人道上

ヲ官房長ニ尋ネタル処其答ニ國際的事業ニ従事セル伊国ノ高級官吏ガ希国ノ領土内ニ於テ故無ク慘殺セラレタルガ如キ近世ノ歴史ノ類例ヲ見ザル由々シキ大事件ニシテ文明國トシテ甚ダ恥スベキ出来事ナリ伊国全体ノ憤怒ハ勿論他國ニモ著シキ反応ヲ起シタリ「ムソリニ」ハ冷静ノ判断ヲ以テ其最小限ト認メラルル要求ヲ為シタルニ希臘ハ其幾部分ヲ容レタルモ肝要ノ点ニ付承諾ヲ為シ来ラザル為軍艦ヲCottニ派シ同地ニ兵ヲ上陸セシムルコトニ決定シタルガ之レ決シテ戦争ヲナスノ意ニアラズ只希臘ガ事件ノ重大ナルコトヲ感ゼザルモノノ如クナルニ付之ヲ感ゼシメンガ為ナリ希臘ニ於テ速ニ適當ノ措置ニ出デ事件ヲ紛糾セシメザル様希望ニ不堪ト述ベタリ依テ本使ハ不取敢此慘事ノ為伊国官吏ニ悼マシキ犠牲者ヲ生ジタルコトニ付本使ノ弔意ト同情ヲ表スル旨申述ベ置キタリ御含置ヲ乞フ
 英、仏、希へ転電セリ

三二九 九月一日 在伊国落合大使ヨリ
 山本外務大臣宛（電報）

ギリシャ側ノ回答要領及ビ伊国政府ノ在外使臣ニ対スル通牒ニ関スル件

ノ慣習及法規ニ照シ当然伊国ニ与ヘラルベキ賠償遂行ヲ飽ク迄要求セントスルモノニ外ナラズ尚大使會議ニ於テモ希國ニ相当制裁ヲ加フベシト思考ス云々」
 又三十一日午後四時「ソラリ」提督ハ「コルフ」ニ其一隊ヲ上陸セシメ伊国国旗ヲ掲揚シタリ

三三〇 九月一日 在仏国大使館付英合陸軍武官ヨリ
 武藤參謀次長宛（電報）

伊国將校殺害事件ニ対スル各国ノ態度報告ノ件

号外 （九月六日陸軍省到着）

一、国境画定委員タル伊国將校慘殺事件ニ関シ伊国政府ノ発シタル最後通牒ハ欧州人心ヲ攪乱セリ、英米ノ輿論ハ被殺軍人カ伊国人タル故ニ同国政府カ直接抗議ヲナシタルハ敢テ咎ムヘキニ非サルモ同国政府ノ処置苛酷ニシテ条件モ亦甚タシク慘酷ナリト論シ仏国民モ亦親希反伊ノ伝統的感情ニ依リ伊国ノ要求ヲ過大ト論シアリ政府ハ尚慎重ノ態度ヲ保チ旗色ヲ明ニセス

二、伊国ハ首相ノ对内政策及対外交ノ主張ニ基キ飽ク迄現態度ヲ支持スヘク希臘政府モ亦曩ニ「ローザンヌ」會議

ニ於テ多大ノ讓歩ヲナシタル關係上無条件ニ屈服スルコトハ到底不可能ナルヲ以テ多分要求ヲ拒絕スルモノト判斷セラル而シテ兩國ノ武力關係ハ相撲ニナラサルモ「ユーゴスラヴ」ノ対伊感情ト希臘ノ夫レトハ從來ヨリ零細相通スルモノアリテ既ニ何等カノ默契アリトサヘ伝フルモノアリ若シ「ユーゴスラヴ」ニ自国民統一ノ希望アリ希臘ト結ブ時ハ意外ノ事變ヲ發生スヘシト觀測セラルル節アリ然レ共大戦ノ慘禍ニ手ヲ焼キアル今日ナレハ一般ノ空氣ハ列強ノ仲裁ニテ戦争忌避ニ落着クヘシト信シツツアリ

三、英、仏、伊三国大使会合ノ上大使會議ノ決議トシテ希臘政府ニ委員虐殺ノ抗議書ヲ發セリ

三三一 九月一日 在伊国落合大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

伊国委員虐殺事件ニ関シ弔辭申入レノ件

第一七五号 （九月五日接受）

伊国委員虐殺弔辭申入ノ件ニ関シ

在伊仏国代理大使ニ於テ起草シタル公文（大使會議ニ於ケル日英仏米四国代表者ヨリ伊国政府ニ深厚ノ弔辭ヲ申入ル

国公使ハ前記回答ハ事実上要求ヲ峻拒セルモノト認ムベク希臘政府ノ責任觀念ヲ惹起スル為（不明）ニ上陸ヲ命ゼリ右ハ伊国ノ「プレスチージ」維持及要償ノ決意ヲ表示スルモノニシテ一時的平和ノ性質ヲ有スルモノナル旨ヲ共同シテ巴里大使會議申入レトシテ希臘政府ニ対シ通告セリ右通告ノ際ハ既ニ故障ナク該港ノ占領ヲ終了セリ一面ニ於テ当地英仏伊三国ノ代表者ニ該會議派遣ニ係ル委員慘殺責任確定ノ為急速調査方ヲ要求セリ

三三三 九月一日 在ギリシャ國諸井臨時代理公使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

コルフ島砲撃事件ニ対スルギリシャ側ノ態度

報告ノ件

第四六号 （九月六日接受）

往電第四五号ニ関シ承諾スルト共ニ「アルバニア」領内ヲモ取調フルノ権限アル三名ノ取調委員會ノ設置ヲ提議シ更ニ「コルフ」砲撃ニ因ル死傷其他ノ損害ノ要求ヲ留保スル旨ヲ回答セリ将来「コルフ」占領就中無防備中立ナル同島ノ砲撃ハ非常ニ人心ヲ激昂シツツアルモ總理大臣「ゴナタス」ハ政府ハ伊国ニ対シテ何等ノ敵対行動ヲ執ル事ナク國

ルノ趣意）ニ本使及英仏米代表者協同署名伊国政府へ送ルコトニ取計ヒタリ

三三二 九月一日 在ギリシャ國諸井臨時代理公使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

ギリシャ側ノ回答ニ対シ伊国ヨリ同國ノ執リタル措置ヲパリ大使會議ノ申入レトシ通告並ニコルフ島ニ艦隊派遣占領ノ件

第四五号 （九月七日接受）

伊国委員慘殺ニ関シ八月三十日希臘政府ハ伊国側ノ要求セル一、最高陸軍官憲ヨリ深厚ナル陳謝二、閣員參列ノ上雅典寺院ニ於テ莊嚴ナル追悼式舉行三、「ビレー」港へ特派ノ伊国海軍隊ノ国旗ニ艦隊ノ敬礼四、遺族ヲ伊国軍艦ニ移乗ノ際陸軍最敬礼公使館付武官參加ノ上（脱）五、五日内ニ犯人搜索ノ終了六、犯人ヲ極刑ニ処罰七、五日内ニ賠償五千万「リラ」ノ支払、ノ七条中、一ヲ雅典司令長官、三ヲ伊国公使館ニ対シ雅典衛戍兵ノ一隊ニ改メ、四迄承諾セルモ、五ヨリ七迄ハ遺族ニ対スル相当賠償以外ニ之ヲ峻拒セリ然ルニ伊国側ハ右峻拒ヲ期待シ既ニ伊国艦隊ヲCourtニ特派シ其占領ノ準備ヲ為セルモノノ如ク三十一日午後伊

際連盟ノ裁決ニ待ツヘク從テ伊国商船ノ出入ハ自由ナルヘシト声明セル一面勸告ニ対スル挑発の新聞記事及（不明）セル輿論ノ悪化ヲ予防シ伊国公使館ハ勿論伊国商店ヲモ警護シ居リ市中ハ平靜外觀ヲ装フモ民衆ノ集合所ト見做スヘキ「カッフエー」店ニ集合セル連中ハ伊国亡狀ヲ憤慨シ今回ノ事件ハ伊国カ企ミタルモノト認メ政府側ノ「ブーマ」氏ハ伊国「ミッシヨン」ノ虐殺ト之ヲ伊国内政ニ利用セントスル陰謀ハ嫌惡ニ絶エス畢竟 ultimatum ハ精神的満足ヲ得ンカ為ニ非シテ其承諾ヲ得ル虞無カラシメ「コルフ」占領ヲ達成セムカ為冷靜ニ作成セラレタルモノナリ由來伊国ハ地中海東部ニ於ケル希臘勢力ヲ根絶スルヲ政綱トシ巧ミニ希臘内ノ紛争ヲ激成スルノ外交ヲ施セリ一九一六、一九二〇年ニ於ケル内訌モ之カ為ナリト論シタルハ希臘輿論ヲ表示セルト見テ差支ナカルヘシ

英仏伊寿府へ転電セリ

三三四 九月一日 在仏国佐藤臨時代理大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

伊国ギリシャ紛争ニ対スル仏國ノ態度報告ノ件

第五〇五号

（九月六日接受）

希伊問題ニ関シ謀報ニ依レハ仏国政府ハ伊国ノ感情ヲ害セ
ンコトヲ氣遣ヒ新聞ノ批評ヲ差控ヘシメ居ル処仏国政府ハ
本件ヲ連盟ニ持チ出サルルニ付テハ「ルール」問題付議ノ前
例ニ利用セラルルヲ虞レ氣乗リシ居ラサルカ一日ノ御用紙
「タン」ハ本件連盟付議ハ英國側ヨリ「サゼエスト」セラ
レ其ノ賛成ヲ得居ル処本件「ルール」問題トハ別ナレハ仏
国トシテハ其付議ニ付テハ別ニ困ルコトナシト言ヒ乍ラ最
後ニ希臘トシテハ本件ヲ連盟ニ提出スルヨリモ伊国トノ間
ニ直接ニ解決スル方可然シト論セリ

三三五

九月三日

在ギリシャ國諸井臨時代理公使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

伊国艦隊コルフ島占領ノ状況報告ノ件

第四七号

（九月六日接受）

「コルフ」占領ニ付公表セルモノヲ綜合スルニ八月三十一
日午後三時伊国艦長ハ同島ニ上陸シ封鎖及一時間内ニ平和
占領ヲ為スヘキ旨知事ニ通告シ艦テ多數戰艦ヨリ成ル艦隊
入港シ更ニ希國国旗ノ引下伊國旗ノ掲揚、「アドミラル・ベ
リ」ニ島政ノ引渡シ衛戍兵及憲兵ノ降伏兵營及軍用材料ノ

曩ニ八月中旬「フューメ」問題ニ関シ主張貫徹ノ準備トシ
テ「ユーゴースラブ」ノ國境ニ動員セシコトアルモ偶々今
回ノ國境確定委員暗殺事件ニ之ヲ利用シ居レルモノノ如シ
云々、英仏及寿府ヘ転電セリ

三三七

九月四日

在伊國落合大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

國際連盟ノ事件裁決ノ場合ニ伊國ノ執ルベキ

態度ニツキ報告ノ件

第一七七号

（九月六日接受）

「ステファニ」通信ニ依レハ伊希事件ニ関シ希臘ハ之ヲ國
際連盟ニ訴ヘ其ノ裁決ヲ仰カントセル処伊國政府ハ本件ノ
如キ伊國ノ名譽及威信ニ関スル問題ヲ連盟ニ於テ裁決スル
ノ權限無シト断定シ其旨在寿府ノ伊國委員ニ電訓シ若シ連
盟ニ於テ本件ヲ取上ケ何等ノ裁決ヲ与ヘントセハ伊國ハ連
盟ヨリ脱退スルヤ否ヤ其ノ態度ヲ明確ナラシムヘシト
英、仏、寿府ヘ転電セリ

三三八

九月四日

在仏國大使館付渋谷陸軍武官ヨリ
武藤參謀次長宛（電報）

伊國ノコルフ島占領ニ対スル英仏及ビユーゴ

七 イタリア・ギリシャ紛争（コルフ島砲撃事件）関係

三三七 三三八

三七七

引渡シヲ要求セリ右ニ対シ知事ハ請訓ノ猶予ヲ求メタルニ
拘ハラス伊兵ハ直ニ上陸ヲ開始シ其際飛行機ハ上空ヲ巡邏
シ軍艦ヨリ憲兵軍港及旧城塞ヲ砲撃シ其ノ收容避難民二十
名ヲ殺傷シ伊兵一万五千上陸シ六時ニ該要塞上ニ伊國旗ヲ
掲揚シ二十一発礼砲アリ占領ヲ了ヘ更ニ其ノ付近ノ Paxos
Sutipaxos 二小島ヲモ占領セリ因ニ同島ハ一八六四年三月
英仏露トノ條約ニ依リ英國ヨリ讓渡セラレ埃國ノ注意ニ依
リ永久中立トナシ秩序及徵稅必要以外海陸兵ノ駐屯ヲ禁シ
其ノ要塞ヲ破壊シタリ一九一五年末英仏兵ハ塞軍退却擁護
ノ為是ヲ占領セルコトアリ右ハ條約違反ト認メラレ居レリ
又同島ノ税関收入ハ國際財政委員會ノ担保トナリ居レリ
英仏伊寿府ヘ転電セリ

三三六

九月四日

在伊國落合大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

伊軍出動ニ関スル情報報告ノ件

第一七六号

（九月六日接受）

新聞ニ發表ヲ嚴禁セラレ居ルニ付極秘ナリトシテ當館謀報
者九月三日ノ内報ニ拠レバ Caproni 航空隊ハ「アルバニ
ア」方面ニ他ノ部隊ハ「ナポリ」ヲ出發セリト伝ヘラル

イスラヴィアノ世論報告ノ件

号外

（九月五日陸軍省到着）

一、希國ノ拒絕ニ遇フヤ伊國ハ直ニ其艦隊ヲ以テ「コル
フ」及二小島ヲ占領セリ
二、英ノ輿論ハ伊ノ此行動ヲ目シ巴爾幹ノ平和ヲ乱シ東部
地中海ノ安寧ヲ破ルモノトシ盛ニ反對シツツアリ同國政
府モ亦仏國ヲ誘ヒ伊國ヲ圧迫セント企画シアルカ如シ
三、仏國政府ハ依然中立ノ態度ヲ變セス直接英ト共ニ伊國
ニ干涉スルカ如キコトハ其好マサル所ニシテ大使會議ノ
間接的干涉ニ依リ兩國ノ何レニモ偏セス努メテ伊國ノ感
情ヲ害セサルコトニ努メツツアリ蓋「ルール」問題ニ於
テ英ハ殊ニ伊國ヲ以テ其同意見者ナリトシ英伊提携シテ
仏白二國ニ當リアリタルニ因ラスモ本事件突然シ英國カ
伊國ニ立テ衝クノ已ム無キニ至リタル好機ヲ利用シ伊國
ノ感情ヲ親仏的ナラシメ以テ同國側ニ近寄ラシメントス
ル魂胆ナルカ如シ新聞界ノ輿論又之ニ同和シ伊國側ノ行
動ヲ報スルニハ忠実ナルモ論難スルモノ少シ
四、「ベルグラード」ノ新聞紙殊ニ政府機關紙ハ挙テ同國
ハ決シテ他國カ巴爾幹地方ヲ窺フヲ許サス現状維持ノ為

ニハ巴爾幹人民直ニ協力一致スヘシト論シツツアリ

三三九 九月八日 在仏国佐藤臨時代理大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

大使會議ノ任命セル査問委員会ノ委員長トシ

渋谷大佐派遣追認方要請ノ件

第五〇九号 （九月九日接受）

希臘「アルバニア」国境画定伊国委員五名客月二十七日希臘国内ニテ暴徒ノ為虐殺セラレタル事件ニ関シ伊国ハ最後通牒ヲ希臘ニ送り希臘政府ノ謝罪犯人ノ処罰及五千万「リラ」ノ賠償ヲ迫リ連盟及大使會議ノ問題トナリタルガ前記委員会ハ大使會議ノ決議ニ基キテ組織セラレタルモノナルガ為大使會議ニ於テ本件ヲ処理スルコトニ決シ九月七日ノ會議ノ席上査問委員会ヲ任命シ希臘官憲ノ行フ犯人ノ搜索及処罰ヲ監督セシムルコトナレリ

該委員会ノ構成ニ関シ英仏伊ノ外日本ヲ加ヘ日本委員ヲ議長トシタキ旨英仏伊ヨリ提議アリ本官ハ国境画定委員会ニ委員ヲ出ダシ居ラザルヲ理由トシテ辞退シタルモ直接利害關係ナキ日本ヲ議長トスルニアラザレバ公正ナル解決ヲ求メ難シトテ三国殊ニ伊国ヨリ懇望ノ次第アリ一方「アルバ

基キ組織セラレタルモノナルヲ以テ本件ハ大使會議ニテ処理スルニ決シ昨七日大使會議ハ日、仏、英ヨリ委員ヲ出シテ審査委員会ヲ構成シ大使會議ヨリ希臘ニ發セル通告ノ實施就中犯人ノ搜索及処罰ヲ監督セシムルコトニ決定シ「アルバニア」国境画定ニハ仏、伊、英ヨリ委員ヲ出シテ帝国ハ之ニ委員ヲ派遣セサリシト尚去ル三月帝国委員ノ全部ヲ国境画定委員会ヨリ脱退セシメタル關係上前記ノ審査委員会ニハ帝国委員ハ参加セサルコトニ日本側ハ努力シタルモ伊国ハ白耳義ノ態度自国ニ不利ナルヲ察知シ白耳義ヨリ委員ヲ出シ之ヲ委員長タラシムルコトニ同意セス自国委員ヲ委員長タラシムルコトヲ主張シタルモ仏、英之ニ反対セル結果伊、仏、英ハ公平ノ立場ニアル日本ヨリ委員ヲ出シ之ヲ委員長トスルコトヲ熱望シテ止マサリシヲ以テ遂ニ日本側ハ之ヲ承諾スルノ余儀ナキニ至ル右ノ次第ニテ事急速ヲ要シ委員ハ各国共將校ヲ以テ之ニ充テ而モ日本委員ハ委員長タラサルヘカサル關係上石井大使ハ渋谷大佐ヲ帝国委員トスルコトニ決シ八日付本省第五〇九電報ヲ以テ渋谷大佐派遣方外務省ニ承認ヲ求メラレタリ因ニ審査委員会ハ大使會議ヨリ希臘ニ發セル通告ヲ希臘カ受諾シタル場合ニ派

ニア」国境画定委員会組織ノ決議ニハ日本モ加ハリ居レルト大使會議ノ一員トシテ諸般ノ問題ニ干与セル以上素氣ナク之ヲ斥ケ難キ事情モアリ依テ実施委員石井大使ノ承認ヲ得テ渋谷大佐ヲ委員長トシテ派遣スルコトセリ
本件ハ一応御指示ヲ仰グベキ事柄ナルモ事急ヲ要スルト共ニ目下ノ狀態ニテハ通信困難ナルガ為當方限リニテ取計ヒタルニ付テハ陸軍省及參謀本部トモ御交渉ノ上石井大佐派遣方御追認ヲ請フ
寿府へ転電セリ

三四〇 九月八日 在ジュネーヴ駐留陸軍少將ヨリ
田中陸軍大臣宛（電報）

大使會議審査委員会ノ構成及ビ日本委員任命

ノ経緯報告ノ件

陸構一九 （九月九日陸軍省到着）

希臘「アルバニア」国境画定伊国委員五名八月二十七日希臘領土内ニ於テ虐殺セラレタル事件ニ関シ伊国ハ最後通牒ヲ希臘ニ送りテ希国政府ノ謝罪犯人ノ処罰及五千万「リラ」ノ賠償ヲ要求シ遂ニ國際連盟及大使會議ノ問題トナリタルカ「アルバニア」国境画定委員会ハ大使會議ノ決議ニ

遣セラルルモノニシテ大使會議ハ審査委員会ニ対シ九月二十七日迄ニ業務ヲ終了シ其報告ヲ大使會議ニ提出スル様目スル等

三四一 九月十三日 在伊国落合大使ヨリ
山本外務大臣宛（電報）

紛争問題ニ対スル伊国側輿論報告ノ件

第一八四号 （九月十四日接受）

伊希兩國葛藤問題連盟ニ持出サルルヤ伊国ハ脱退ヲ賭シテ迄連盟ノ職權外ナリト争ヒタル當時当地外交界ニテハ「ムソリニ」ノ高圧的外交ヲ憂慮シ同人ノ無經驗ニ依ルト評セル者アリタル程ナル処大使會議ノ斡旋ニテ本件モ將ニ落着セントスルニ際シ伊国輿論ハ是レ全ク「ムソリニ」外交ノ大勝利ナリト為シ異口同音ニ現政府ヲ謳歌スルト共ニ連盟ニ於ケル行懸上英國ニ対シ嘲笑の批評ヲ試ミツツアリ
要スルニ本件今日ノ成果ヨリ觀察スルニ之カ為現政府ノ地位又々鞏固トナリ当国ニテハ連盟ノ威信大ニ輕ク見ラレ居リ又武力ヲ以テ政權ヲ握レル「ファシスチ」政府ハ今又武力ヲ以テ外交ニ勝チタルノ新例ヲ開キタルカ「ムソリニ」外交ノ将来ハ欧州ノ政局上頗ル注目ニ値スヘキモノナリト

思考ス

英、仏、連盟へ転電シ独、白へ郵報セリ

三四二 九月十九日 在ギリシャ国諸井臨時代理公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

大使会議要求ノ条件ヲギリシャ政府履行ノ件

第四九号 （九月二十日接受）

希国政府ハ本十九日迄ニ伊希紛争事件ニ関スル大使会議ノ要求条件一ヨリ四迄ヲ無事履行セリ葬儀ニハ本官モ参列セリ尚五及六ノ調査ハ「ジャニナ」ニテ進行中

三四三 九月二十一日 在ローマ小川大佐ヨリ
陸軍参謀本部宛（電報）

伊国政府ノ強硬態度ニ関スル件

伊電第五号

伊国政府ノ希臘ニ対スル態度ハ強硬ニシテ希国カ伊国ノ要求ニ応スル迄「コルフ」「モセロア」ノ占領ヲ継続スヘク又本問題ヲ国際連盟會議ニ付スルニハ絶対反対ニシテ若シ強テ該會議ニ付スル時ハ伊国ハ連盟ヲ脱退スルモ辞セサルノ決意ヲ示シ居レリ

編註 本電ハ長崎ヨリノ郵送電送

三四四 九月二十三日 在ジュネーヴ連盟總會代表ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

伊国ギリシャ紛争ニ関スル連盟理事会ノ態度
報告ノ件

第四三三号 （九月二十五日接受）

石井理事ヨリ

(一) 希伊問題ガ本月一日理事会ニ提出セラルルヤ連盟各代表殊ニ小国側ニ於テ伊国ノ乱暴ナル行動ニ激昂シ直接間接理事会会員ニ向ヒテ英断ヲ執ルベキ事ヲ迫ルノミナラズ其伊国ニ対スル反感ヲ示スガ為總会副議長以下役員選挙ニ際シ伊国代表ニ投票スルモノ殆ド皆無ノ体ナリキ(二) 理事会ハ一面伊国ガ本件ニ対スル理事会ノ権能ヲ争ヒ他方大使會議ガ進ンデ本件処理ニ任ズルニ願ミ權能論ハ後ニ譲リ大使會議ニ対シテ管轄ヲ争フヲ止メ斯ル場合ノ先例ニ依リ寧ロ大使會議ト協力シテ事件ノ解決ニ資スルヲ努ムルニ決シタリ此ノ慎重ナル態度ヲモドカシトスル總會ハ忌憚ナク本件ヲ本會議ニ於テ論難セントスルノ形勢ヲ呈セルガ故ニ去ル十二月日本使ガ理事会會長タル關係ヨリ往電第二七号ノ演説ヲ為スノ必要ヲ見タル次第ナリ

(二) 次テ本件ハ大使會議ニ於テ大体解決ヲ告ケタルニ依リ理事会ハ十七日ノ公開會議ニ於テ大使會議ノ通告ヲ受領スルト同時ニ理事会ノ抱負ヲ披瀝セル回答ヲナスニ決シ同時ニ理事会ノ態度ヲ説明スル演説ヲナシタル魂胆ナリ尤モ本問題討議中ニ起レル二、三法律問題ハ希伊問題ヲ離レ別ニ議スルコトトシ希伊問題ハ右回答ヲ發シテ一応結了ト見做セルナリ

(三) 本問題ニ対スル理事会会員ノ態度ハ英ノ「セシル」卿、瑞典「ブランチン」ヲ急先鋒トシ西白何レモ理事会ノ權能ヲ主張ス仏ノ「アノトー」ハ現下政局ヨリ打算セル政府ノ訓令アリテ已ムナク伊ヲ声援セリ

伯刺西爾ハ如何ナル内情アリテカ亦伊ヲ助クル態度ニ出テタルヲ以テ「セシル」卿ノ如キハ深ク之ヲ含ミ理事会選挙ニ際シ伯刺西爾ヲ其希望タル常任理事国タラシメサルハ勿論非常任理事ヲモ落選セシメント敦囑ケリ本使ハ伊国ノ行動ヲ是認セサルハ勿論ナルモ支那ヲ隣邦トスル日本カ伊国ノ行動ニ近キ態度ニ出ツルノ已ムナキ場合ニ遭遇セサルニモ限ラサルヘキヲ慮リ成ル可ク伊国攻撃ノ陣頭ニ立ツヲ避ケタリ

四 渋谷大佐ヲ審査委員長タラシムルハ四囲ノ状況已ムナキヲ以テ同意ヲ表シタルガ同大佐ノ使命ハ英仏伊ノ間ニ挾マリ困難ト察セラレタルニ付英ニ偏セズニ仏伊ニ党セズ一本槍ニテ勇往スベキ旨申送り置ケリ

(四) 第三項末段ノ二、三法律問題トハ(甲)規約第十五条解釈即チ理事会權能(乙)連盟創立後ノ今日理事会ヲ俟タズ Pacific blockade or reprisalノ手段ヲ執リ得ルヤ否ヤ(丙)一國ガ其領土内ニ行ハレタル政治的犯罪ニ対シ如何ナル責任アリヤ等ナリ多分ハ常設司法裁判所ヘ諮問スルコトトナルベキモ諮問ノ形式ヲ作ル至難事ナリ

(丙) 常任理事国ガ理事会ノ被告トナリタルハ今回初メトス殊ニ英仏反目ノ今日伊国ガ被告トナレルコト故理事会ノ議事ハ屢々機微ノ事情ニ制セラレ頗ル困難ヲ嘗メタリ事務總長ハ自己ノ国籍ニ顧ミ頻ニ遠慮シテ伊希兩代表ヲ除外セル内協議會ニハ一切出席セザルノミナラズ事務局ニ右内協議會ヲ開クサヘ避ケタルニ付内協議會ハ總テ本使ノ客問ニ行ハレタル程ナリ

(四) 「セシル」卿ガ十六日ノ日曜ヲ利用シ「エイキス」湯治中ノ英首相ト会見シタル以後其態度ニ若干軟化ノ氣味ア

リテ為ニ理事会ハ一層穩和説ニ傾ケリ其結果小国側ハ理事會ノ態度ニ慊ラサル感ヲ有スルニ至リ世間ノ論調モ多クハ其軟化ヲ攻撃スルノ傾向アリテ其当時ハ別トシテ

(イ)伊国ガ連盟各國殊ニ小国側一派ノ惡感ヲ買ヘルコト非常ナリ、シカモ「コルフ」占領ハ撤退ヲ余儀ナクセラレ何等実益ヲ収メ得サリシ「ムソリニ」首相ノ喜劇的行動ノ末路ハ世間ノ山師の政事屋ニ好手ノ教訓ヲ提供セリ在欧各大使、希臘ヘ郵送セリ

三四五 九月二十七日 在ギリシャ國諸井臨時代理公使ヨリ伊集院外務大臣宛

伊国・ギリシャ紛争事件顛末報告ノ件

付屬書 伊希紛争事件（アルバニア國境画定委員虐殺事件）報告書

大正十二年九月二十七日

在希臘

代理公使 諸井 六郎（印）

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

公第五三三號

（十一月二十一日接受）

一九二三年八月ヨリ九月ニ亘リ「アルバニア」國境画定委

一九二二年十一月二十八日「アルバニア」独立ヲ宣言スルヤ倫敦大使會議ハ同年十二月二十日自治ノ原則ニ同意シ一九一三年十一月「アルバニア」ニ憲法制定及國境確定ノ為仏、英、露、独、奥及伊國代表者ヨリ成ル委員會ヲ北部「エピール」ニ派遣シ希、亞間ノ係争地方ノ調査ヲ開始シ當時「エピール」ハ希軍ノ占領ニ係リ基督教民ハ希臘ヘノ合併ヲ熱望セシニ拘ラス一九一三年十二月十九日六國代表者調印ノ「フロレーンス」議定書ハ北部「エピール」全部ヲ「アルバニア」獨立國ニ歸屬セシカ一九一四年二月希臘軍ハ新境内ニ撤退シ同年三月独逸「ウイッド」公入リテ即位セシカ同年五月内乱突発國外ニ避難シ一面黒山、塞、希、伊四國各々「ア」國ニ侵入シ伊國ハ「ヴァロナ」ヲ占領セリ是ヨリ先キ希系「エピロス」人叛旗ヲ挙ケ即チ一九一四年二月末希人「クリスタキ・ゾグラホス」及「アレキサンドル・カラバース」ハ北部「エピルス」ノ自治獨立ヲ宣言シ「アルギロカストロ」ヲ政府ノ所在地トシ義勇軍ハ本国各地ヨリ来集シ「アルバニア」軍ヲ撃退シ「テベレニ」及「ブレラ」ニ進軍セントス在「ヴァロナ」國際管理委員會ハ「ゾ」「カ」兩氏ヲ「コルフ」ニ招致シ協議ノ末一九

員會伊國委員長一行虐殺ニ関連シ發生セル伊希紛争事件顛末別紙報告書及提出候間御査閱相成度此段申進候也

（付屬書）

伊希紛争事件（「アルバニア」國境画定委員虐殺事件）報告書

緒論

一九一二年巴爾幹戰爭以來欧州大戰前後ニ亘リ希臘ノ東部地中海就中「アドリア」海及「エーゲ」海方面ニ於ケル長足ノ發展ニ伴ヒ伊希國際關係ハ円滑ヲ欠クモノ有リ蓋シ伊國伝統ノ大伊主義ハ「アドリア」海ノ制海權ヲ独占シ更ニ「エーゲ」海ニ其ノ強翼ヲ拡張シ其ノ勢力ヲ小亞細亞方面ニ扶植セムトスルニアリテ希塞兩國就中希國ノ大希主義カ自己ノ勢圈ト自期スル地域ニ於テ衝突シ反目スルハ敢テ怪シムニ足ラス「アルバニア」問題トイヒ「ドデカネーズ」問題トイヒ將又今回ノ「コルフ」島問題トイヒ皆是レ其ノ暗闘ヲ語ルモノニシテ伊希關係ノ将来及之ニ関連スル英仏等諸列強ノ思潮ヲ賭スルノ資料タルヘキモノトシ茲ニ今回ノ事件ノ発端タル「アルバニア」國境画定問題ヲ冒頭トシ事件ノ顛末ヲ舒説シ國際の措置ノ概要ヲ記述セムトス一、「アルバニア」國境画定問題經過

一四年五月十七日同首領ハ北部「エピール」人ノ名ニ於テ六強國代表者トノ間ノ協定ニ調印セリ右ニ依レハ同地方ノ主權ハ「アルバニア」ニ譲与スルモ基督教住民ニ行政上、教育上及宗教上広大ナル自治ヲ保障セリ右ハ同年七月二十三日「アルバニア」政府ノ承諾スルトコロトナリシカ一箇月ニシテ世界大戰破裂同年十一月列強（伊國ヲ含ム）ハ希臘ニ北部「エピール」ノ占領ヲ許諾シ同時ニ伊國ニ對シ「ヴァロナ」ノ占領ヲ慫慂セリ翌年四月二十六日連合國間ニ倫敦條約調印セラレ北部「エピール」ノ境界ヲ越エサル「ヴァロナ」及其ノ西南地方ノ統治權ヲ伊國ニ与ヘ「エピール」統治權ヲ希臘ニ許与セリ

然ルニ一九一六年十二月二日仏兵雅典ニテ殺害セラルルヤ列強ハ「ヤラムブロス」氏ノ仮政府ニ對シテ希軍ヲ北部「エピール」ヨリ撤退ス可キ最後通牒ヲ發シ其ノ撤退後伊軍ハ「アルギロカストロ」地方ヲ占領シ仏國ハ「コリツツア」ニ「アルバニア」共和國ヲ建設シ一九二〇年五月迄居残りタリ

平和會議巴里ニ於テ開カレ北部「エピール」問題ハ希國委員「ヴェニゼロス」伊國委員「チトニ」間ニ論議セラレ

一九一九年七月二十九日伊希協定成リ「コクツツア」及「アルギリカストロ」ヲ希臘ニ与フルコトナリ「アルバニア」南境確定セラレ一九二〇年一月十三日ノ最高會議ハ之ヲ承認セリ、即チ「アドリア」海問題ニ関シテ伊塞間ニ決定の解決ヲ見ルニ至ル迄希臘ハ「エビルス」地方ノ占領權ヲ得タリ而シテ一九二〇年五月十五日希、ア兩國代表者間ニ「カベスチツア」協定締結セラレ「エビール」問題ニ付テハ専ラ連合國ノ決定ニ服ス可キ事ヲ約セリ、然ルニ一九二〇年七月二十二日伊國ハ「チトニー」「ヴェニゼロス」協定ヲ廃棄シ「ヴェニゼロス」氏ハ「エビール」ニ関スル約束力尊重セラレサルトキハ「セーヴル」条約ニ調印セサルノ氣勢ヲ示シタルカ「ドデカネーズ」問題ヲ伊國ニ有利ニ解決シタル代償トシテ「エビール」問題ハ「ヴェニゼロス」ノ要求通りニ決定シ「セーヴル」条約ハ兩國ノ調印ヲ見タリ同年十月三十日「ラッパロ」協約成立シ伊塞間ノ懸案タル「アドリア」海問題ハ解決セラレタルニ依リ希臘ニ取リ「エビール」問題解決ノ障礙モ自然除去セラレタリ、然ルニ一九二〇年十一月十四日希臘總選挙ノ結果「ヴェニゼロス」派敗北シ同氏ハ出国シ「コンスタンチン」王

復位シ爾來希臘ハ力ヲ小亜細亞戰ニ集注セシタメ「エビルス」方面ノ防備稀薄トナリタリ
「アルバニア」ハ一九二一年四月國際連盟理事会ニ對シテ國境画定ヲ請願セシカ希臘代表ハ一九二〇年一月十二日ノ最高會議ノ決定ニ基キ北部「エビール」問題ハ大使會議ノ管掌ニ屬シ連盟理事会ノ權限ニ屬セサル事ヲ主張セシニ同理事會ハ本問題ニ関シ其ノ權限無キ事ヲ議定シ之ヲ大使會議ニ移牒シ一九二一年七月十一日伊國ハ「チトニー」「ヴェニゼロス」協定ノ廃棄ヲ宣言シ從ツテ希臘國境ハ未確定ノ狀態ニ在ル事ヲ主張シ大使會議ハ伊國ノ見解ヲ採用シ一九二一年十一月九日「アルバニア」國境画定委員ヲ現場ニ送ル事ヲ議定セリ
爾來右國境画定ニ就テハ希臘側ハ伊國委員ニ於テ兎角「アルバニア」側ヲ不当ニ擁護スルノ不平盛ニシテ希伊兩國委員間ニ惡感情蟠レルトノ風評ヲ屢々耳ニスルトコロナリキ因ニ本邦ハ「アルバニア」國境画定委員會ニハ当初ヨリ委員ヲ出ササリシカ我在希公使館ニテハ希臘側「エビルス」人ヨリ同地方カカ母國ニ帰屬スル為ノ請願電報ニ接スルコト数次ナリキ

二、伊國委員虐殺事件大要

一九二三年八月二十七日早朝希「ア」國境画定委員伊、希、「ア」三國委員ハ各約十五分間ノ間隔ヲ以テ希臘「ジヤニナ」「サンチ、カラント」ノ街道ヲ驅リ「ア」國自動車ハ先登ニ立チ伊國自動車ハ之ニ次キ希臘自動車ハ殿ヲナス、而シテ伊國車ニハ委員長「テリニ」少將、「コルチ」少佐、「コナチ」少尉、通訳及運転手同乗セリ、途中希臘國車ハ故障ノ為十七基路標ノ付近ニテ四十五分間停滯セルカ他ノ二車ハ其ノ進行ヲ続ケ伊國車ハ「ア」國車ヨリ驅ケ後レテ之ヲ見失ヒタリ、午前九時頃該街道五十三基ト五十四基トノ間「カカヴィア」ト称スル地ニ於テ（希臘國境ヨリ五基ノ所）伊國車ハ林間ノ道路ヲ閉塞セル材木ニ逢着シ停車ヲ余儀無クセラレ其ノ際擧殺セラレタルモノノ如ク被害者所持ノ有価物文書類ハ其ノ儘ト成リ居レリ而シテ引続キ通過セシ希臘國委員ハ之ヲ発見シ犯人ノ搜索ヲ開始スルト共ニ「ヤニナ」ノ官憲ニ急報シ午後「ヤニナ」駐在伊國副領事「ヤニナ」憲兵隊長及檢事現場ニ出張シテ死体ヲ運搬セリ

同日夕刻希臘政府ハ該事件ノ電票ニ接シ一方政務局長

「ラファエル」ハ伊國公使ヲ訪問シ之ニ通報スルト共ニ希臘政府ノ深厚ナル遺憾ヲ表示シ他方政府ハ憲兵隊長「フロリアス」憲兵大佐「ザフィロプロ」、軍法會議參事官「ダラス」ノ諸氏ヲ現場ニ急派シ伊國公使館付武官「ペローニ・ヂ・サン・マルチノ」大佐モ同行シタリ

三、伊國ノ對希臘要求

翌二十八日伊國公使「モンタニヤ」ハ外務省ヲ訪ヒ不取敢自己ノ裁量トシテ虐殺ニ對スル抗議ヲナシ追テ本國政府ノ訓令ヲ俟ツテ正式ニ抗議スベキ旨ヲ留保セシニ對シテ外相「アレキサンドリス」ハ直ニ伊國公使ヲ訪ヒ希臘政府ノ遺憾ノ情ヲ表セリ

二十九日正午本國政府ノ訓令ヲ接受シタル伊國公使ハ午後八時左ノ要求ヲ口上書トシテ外相ニ手交セリ

(一)希臘政府ハ希臘最高陸軍官憲ヲシテ伊國公使ニ對シ最重ナル公式ヲ以テ陳謝ヲナスコト

(二)在雅典市「カトリック」寺院ニ於テ閣員參列ノ上壯嚴ナル追悼式舉行スルコト

(三)右式日ニ於テ左ノ方法ニ依リ伊國國旗ニ對シ敬礼ヲナスコト

午前八時伊国艦隊ハ「ファレール」ニ入港シ希国軍艦（小艦ハ其ノ資格無ク「サラミス」灣及「ピレー」港ニ碇泊ノコト）ハ予メ同地ニ集合シ其ノ艦橋ニ掲ケタル伊国旗ニ対シ二十一発ノ礼砲ヲナシ追悼式挙行中伊国軍艦ト共ニ吊旗ヲ掲ク同日日没ノ頃伊国軍艦ハ「ファレール」ヲ拔錨スヘク希国軍艦ハ之ニ対シ常例ノ礼砲ヲ発ス（四）希国官憲ハ伊国公使館付武官「ペローネ」大佐ノ協力ノ下ニ犯罪地ニ於テ嚴重ナル搜索ヲナシ政府ハ同大佐ノ安全ノ責ニ任シ其ノ職務執行ヲ容易ナラシムヘシ右搜索ハ本要求受理後五日以内ニ完了スルヲ要スルコト

（五）犯人全部死刑ニ処スヘキコト

（六）希国政府ハ罰金トシテ五千万「リラ」ヲ本口上書提出後五日以内ニ伊国政府ニ支払フヘシ

（七）遺骸ヲ「プレヴェザ」ニ於テ伊艦ニ移乗ノ際陸軍最敬礼ヲナスヘキコト

伊国政府ハ二十四時間以内ニ希国政府ノ回答ヲ待ツ

四、希国ノ対伊国回答

右伊国ノ要求ニ対シテ三十日午後七時政務局長「ラファエル」ノ「モンメニア」氏ニ回答セル要領左ノ如シ

一時的平和ノ性質ヲ有スルモノナル旨ヲ付加セリ

之ヨリ先キ同日午後三時伊国一艦長ハ「コルフ」ニ上陸シ同島ヲ封鎖シ一時間内ニ平和占領ヲ為ス可キ旨知事ニ通告シ艦ヲ多数ノ戦艦ヨリ成ル艦隊入港シ更ニ希国旗ノ引下、伊国旗ノ掲揚、島政ヲ同艦隊司令長官「ベリニ」提督ニ引渡、衛戍兵及憲兵ノ降服、兵營及軍用材料ノ引渡ヲ要求セリ右ニ対シ知事ハ請訓ノ猶予ヲ求メタルニ拘ラス伊兵ハ直ニ上陸ヲ開始シ其ノ際飛行機ハ市街ノ上空ヲ巡邏シ一八六四年協定ニ依リ無防備ト成レル旧要塞及憲兵学校ヲ軍艦ヨリ砲撃シ収容中ノ避難民二十名ヲ殺傷シ伊兵一万五千上陸シ六時ニハ既ニ該要塞上ニ伊国旗ヲ掲揚シ二十一発礼砲有リ占領ヲ了シ更ニ付近ノ「バクソス」及「アンチ・パクソス」ノ二島ヲモ占領セリ

試ニ「コルフ」島ノ国際関係ヲ略述セムニ希国ハ英仏露協定ニ依リ「イオニア」諸島ヲ右三国ノ保護下ニ合併ス可キコトヲ定メ同年十月十九日同島議會ハ希臘ヘノ合併ヲ決議シ翌年三月二十九日ノ倫敦条約ニ依リ英國ハ一九一五年以來領有セシ「コルフ」以下ノ諸島ノ保護權ヲ抛棄シ又英仏露三国ハ埃太利ノ同意ヲ得テ同島ヲ永久中立ト成シ

（一）希国政府ハ伊国政府ニ対シ最深厚ナル陳謝ヲナスコト其ノ目的ノタメ雅典師団長ハ伊国公使ヲ訪問スヘシ

（二）希国政府ハ「アデン」寺院ニ於テ被害者ノタメニ追悼式ヲ挙行シ閣員参列スルコト

（三）伊国旗ニ対シ敬意ヲ表スルタメ雅典衛戍兵ノ一隊ハ伊国公使館ニ至リ其ノ国旗ニ対シ常規ノ敬礼ヲナスコト

（四）「プレベツア」ニテ被害者ノ遺骸ヲ伊国軍艦ニ移乗ノ際嚴肅ナル軍事敬礼ヲナスヘキコト

ヲ受諾シタルモ伊国ノ要求中（四）及（六）ハ希国ノ主權及名譽ト兩立セサルモノトシテ之ヲ拒絶セリ然レ共被害者遺族ニ対スル相当ノ賠償仕払ヲナス可キ事及伊国公使館付武官カ搜索ニ貢獻ス可キ情報ヲ提供スル事ニハ異存無キ旨ヲ付言セリ

五、「コルフ」占領

然ルニ伊国側ニ於テ右希国回答ヲ以テ伊国要求ヲ峻拒セルモノト認メ希国政府ノ責任觀念ヲ喚起スル為伊国兵一隊ヲ「コルフ」ニ上陸セシム可キ旨八月三十一日午後五時伊国公使ヨリ外務大臣ニ口上書ヲ以テ通告シ右ハ伊国ノ「プレスチーヂ」維持及要償ノ決意ヲ表示セルモノニシテ

「コルフ」ノ中立ハ世界大戰ニ至ル迄尊重セラレ同島古代（「ゼノア」時代）ノ要塞ハ一八六五年以來破壊セラレ海岸ニハ軍事防備無ク一九一六年「セラヴィア」軍ガ「アルバニア」ヲ通過シテ「コルフ」島ニ退却シ更ニ「マセドニア」戦地ニ再現セルハ中立違反ト認メラル

今回ノ伊国占領モ亦一八六四年三月ノ条約ニ違反スルヤ否モ一問題ナルカ一九二〇年八月十日締結ノ連合國ト希臘トノ少数民族ノ保護條約ノ前文ニハ英兩國ハ一八三二年五月七日及一八六三年十一月十四日ノ倫敦條約並一八六四年三月二十九日ノ倫敦條約ニ依リ得タル「イオニア」諸島ノ保護ヲ希臘ノ為ニ抛棄ス可キ事ヲ規定シ一九二三年七月二十四日ノ勞山議定書ニモ之ヲ規定シアル為中立違反ナラスト論スルモノモ有リ

六、大使會議ノ通告及希国ノ回答

伊国公使ノ「コルフ」占領通告アリシト同時ニ巴里大使會議ニテハ前記國境画定委員會ハ一九二一年十一月五日ノ大使會議決議ニ依リテ組織セラレタル關係上大使會議ヨリモ本件ニ関シ希臘政府ニ警告ヲ發スルコトニ決シ三十一日午後六時仏國代理公使ハ左ノ趣旨ノ共同通牒ヲ手交セリ

(一) 大使會議ヲ構成スル列強ノ名ニ於テ希國領内ニ發生セル慘殺ニ対シ抗議シ制裁ハ後日ニ留保ス

(二) 希國政府ハ責任遂行ノ為遲滯無ク搜索ヲ続行センコトヲ警告ス

右ニ対シ希國政府ハ仏國代理公使ヲ經テ大使會議ニ対シ其ノ申入ノ趣旨ヲ承諾シ「アルバニア」国内ヲモ取調ノ権限有ル國際取調委員會ノ設置ヲ提議シ更ニ「コルフ」砲撃ニ依ル死傷其ノ他ノ損害ノ要償ヲ留保スル旨回答セリ

七、希國政府ト連盟理事会及總會トノ交渉

之ヨリ先キ希國政府ハ伊國トノ意見ノ相違ノ重大ナルニ顧ミ本件ヲ連盟規約第十二条及第十五条ニ基キ理事会ノ審查ニ委セムトシ代表者「ポリチス」氏ヲシテ之ヲ提出セシム理事会ハ九月一日石井議長ノ下ニ本件ヲ審議セシカ伊國代表「サランドラ」氏ハ本件ハ大使會議ノ関掌スル所ナルカ故ニ理事会ニ其ノ権限無キ事ヲ主張シ且ツ本國政府ノ訓令有ル迄討議延期ヲ希望セリ因テ理事会ハ其ノ決定ヲ延期シ五日ノ秘密相談会ニ於テ大使會議ニ対シ同會議議事ノ模様ニ付報告ヲ受クルノ希望ト共ニ対希要求具體案ヲ付シタル書翰ヲ送ル可シトノ「セシル」卿ノ提議有リ六日ニハ西

定メ且ツ伊國ハ九月二十七日ニ「コルフ」撤退ヲ実行スルニ決シタル旨及希國カ犯人捜査ヲ誠実ニ遂行セサリントキハ五千万「リラ」全部ノ支払等ノ制裁ヲ大使會議ニテ決定ス可キ旨ノ希國政府宛十三日付公文ヲ移牒シ来レルニ対シ理事会ハ十四日及十五日ノ總會会場及石井理事「ホテル」ニ於ケル内會議ニテ大使會議宛回答案ヲ協議ノ結果右通牒ヲ諒承スルト共ニ人心ニ幾多不安ノ念ヲ惹起シタル事態モ右ニ依リ結末ヲ告クルヲ悦ブ旨ノ通牒案ヲ作製シ十七日午前ノ公開理事会ニテ之ヲ可決シ以テ本件理事会ノ関スル限り大体結了セリ

八、大使會議要求履行ト「コルフ」撤退

前掲第六項ノ警告ヲ發シタル後九月五日ノ大使會議ハ國境画定委員會ハ同會議カ任命シタルモノナルニ鑑ミ本件ヲ自ラ処理スルコトトシ九月七日ノ會議ニ於テ希臘ニ対スル要求条件ヲ定メ八日公文ヲ以テ希國政府ニ之ヲ通告シ連盟理事会ニ之ヲ移牒セリ

(一) 在雅典英仏伊外交代表者ニ対スル希臘最高軍憲ノ謝罪

(二) 希臘内閣諸大臣参列ノ下ニ在雅典「カトリック」寺院ニ於テ葬儀執行

班牙代表ノ要求案提案有リ次テ八日ニハ七日ノ大使會議ヨリ希臘宛「ノート」ニ関スル同會議ノ電報接到シ九日右ニ対スル返電ヲ送り同會議トノ連絡ヲ継続スルコトトシ又此ノ際連盟總會ヲ開キ一般的討論ヲ始ムルトキハ本問題ニ議論沸騰スルノ虞有ルヲ以テ五日ノ總會幹部会ニ於テ總會ヲ二三日休ミテ理事会ノ行動ヲ俟ツコトニ決シ十日ニ至リ漸ク總會ヲ開クコトナレリ

十日ノ總會ニ於テ議長ハ本件ニ付理事会ガ折角詮議中ニテ殊ニ大使會議トノ關係動モスレハ機微ニ亘ル今日總會ニ於テ遠慮無ク之ヲ討議スルハ円満解決ニ害アルトモ益無キニ付本問題討議ヲ暫ク延期セシムルヲ得策トスル理事會員一同ノ意見ニテ十日午後六時理事会秘密会ヲ開キ協議ノ結果總會ニ於テ理事会石井議長ヨリ右ノ趣旨ノ宣言ヲ為スニ決シ同日夕刻ノ總會幹部会ノ同意ヲ經タル上十二日午前總會カ理事会報告討議ニ入ルニ先チ石井議長ヨリ伊希問題ハ目下理事会ニテ詮議中ナルト同時ニ重要商議進行中ニテ近ク満足ナル解決ヲ見ル可キニ依リ總會ハ本件ニ関シ討議ヲ暫ク差控ヘラレ度旨宣言セリ

次イテ大使會議ヨリ希國ノ実行ス可キ各種条件ノ細目ヲ

(三) 葬儀当日伊國軍艦ヲ先頭トシテ英仏軍艦「フアレール」

灣ニ投錨シ希臘艦隊ハ儀式後三国軍艦ニ対シ二十一発ノ弔砲ヲ發シ軍艦ハ半旗トスルコト

(四) 「プレヴェザ」ニ於テ遺骸乗船ノ際軍旗ヲ掲揚セル希臘艦隊ヲシテ礼式ヲ行ハシムル事

(五) 希臘政府ハ犯人ノ捜査及処罰ニ関シ有ラユル手段ヲ講ス可キ事ヲ約スルコト

(六) 英仏伊日四國委員（日本ヲ議長トス）ヨリ成ル特別委員會ヲ組織シ希臘政府ノ行フ犯人ノ捜査及訴追ヲ監督センメ九月二十七日迄ニ其ノ事業ヲ完了セシムルコト、該委員會ハ大使會議ニ報告ヲ提出スルコト

希臘ハ委員會ノ安全ヲ保障シ其ノ任務ノ達成ニ有ラユル便宜ヲ供与シ且ツ委員會ノ費用ヲ負担スルコト、委員會ノ任務達成上必要ト認メタル場合ニ「アルバニア」領土内ニ立入り「アルバニア」官憲ノ協力ノ下ニ捜査訴追ヲ行フコト有ル可ク「アルバニア」政府ニ対シ之カ為必要ナル手段ヲ採ルコトヲ勸告スルコト

(七) 希臘政府ハ大使會議ノ承認ヲ得タル委員會報告書ニ基キテ國際司法裁判所ノ決定ス可キ賠償額ノ支払ヲ約スルコ

ト右支払ノ保証トシテ希臘政府ハ瑞西国立銀行ニ五千万「リラ」ヲ供托ス可ク右供托金中ヨリ国際司法裁判所ノ定ムル額ヲ伊国政府ニ支払フコト

ヲ要求セリ

希国ハ右条件ヲ承諾シ

- (一)十八日陸軍大臣「マヴロミハリス」將軍ハ副官ヲ隨ヘ伊、仏、英三国公使館ニ至リ希国政府ノ謝意ヲ述ヘタリ
- (二)十九日「ファレール」灣ニハ戦艦「アヴェエロフ」「ギルキス」駆逐艦「ベルガモス」「テラ」「スフェンドニ」及「アスピス」ヨリ成ル希臘艦隊参集シ居レリ同日午前六時連合艦隊ハ「フレヴァス」島付近ヨリ伊国軍艦ヲ先登トシテ「ファレール」ニ向ヒタルカ「アヴェエロフ」「ギルキス」兩艦ヨリ先ツ二十一発ノ礼砲ヲ伊国旗ニ對シテ發シ次イテ英及仏国旗ニ對シテモ之ヲ放チタリ
- 因ニ希臘艦隊ハ「ボロス」兵学校長「クリエヴィス」中將ノ指揮ニ委ネラレタリ蓋シ伊国艦隊司令官ハ「ソラリ」中將ニシテ希臘艦隊司令官「ハヂキリヤコス」ハ大佐ニ過キサリシ為ナリ

(三)希臘艦隊カ連合艦隊ニ敬礼ヲ表シタル折柄追悼式ハ雅

關係無キ日本ヲ委員長トスルトキハ輿論ニ満足ヲ与ヘ公正ナル解決ヲ期シ得可シトテ英仏伊ヨリ再三日本ノ就任ヲ從順ノ次第有リ渋谷大佐ヲ委員長トシテ派遣ス可キ旨声明シタル所ニテ解決ノ曙光ヲ見タリトテ英仏ハ鄭重ナル謝辭ヲ述ヘタリ而シテ他ノ三国委員ハ英「ハラン」少佐（在君府高級委員付）仏「ラ、コンブ」中佐（「フォシュ」元帥參謀）伊「ボー」大佐（元在東京伊国大使館付武官）ニシテ該委員會ノ任務ハ前掲希臘宛要求第六ニ規定セルヲ以テ右ニ基キ九月八日ノ大使會議ニ於テ大要ノ訓令ヲ決議シ些細ナル点ハ委員長ノ裁量ニ委ネ委員ハ雅典ニ集合シ在雅典連合國代表者及希臘政府ト連絡ヲ取リタル後「ヤニナ」ニ赴キテ事業ヲ開始シ必要ニ応シテ國境画定委員會ノ助力ヲ求ムル事トシ十七日「ヤニナ」ニテ事業開始後五日以内ニ調査ノ結果ヲ大使會議ニ電報シ犯人未発見ノ場合ニハ今後ノ搜索方法ヲ合併セテ報告ス可ク大使會議ハ右報告ヲ審査スルコトナレリ

諸同委員長等ハ十七日「エピール」ニ來着（伊國驅逐艦ニ塔乗）シ「サンチ、カランタ」ヨリ「ヤニナ」ニ向ヒ途中慘殺ノ地点ニテ数分間ノ檢視ヲ為シ次イテ「ヤニ

典加特力教会ニ於テ舉行セラレ内閣員及外交団ノ参列有リ（諸井代理公使モ出席セリ）其ノ終了ノ通報ヲ俟チ正午頃連合艦隊ハ希臘艦ニ對シ二十一発ノ礼砲ヲ發シテ「ファレール」ヲ退去シタリ

(四)遺骸ハ十九日「ブレヴェザ」ニ於テ伊国軍艦ニ移乗シタルカ其ノ際希臘陸兵及軍艦ヨリ敬礼有リタリ

(五)希臘政府ハ犯人ノ搜查及処罰ニ関シ有ラユル手段ヲ講ス可キ事ヲ約シタルカ是ヨリ先キ希臘最高警察官ト英國教習団組織者トヲ現場ニ派遣シタルノミナラス更ニ搜查ニ貢獻ス可キ情報ヲ供給スル者ニ對シテハ其ノ何人タルヲ問ハス之ニ百万「ドラクマ」ノ報酬ヲ与フ可キ旨ノ命令ヲ公布シタリ

(六)國際査問委員會ノ構成ニ付テハ伊國ハ最初自國委員ヲ委員長ト成シタキ意向ナリシモ英仏ハ事件ノ性質ニ鑑ミ當事國ヲ委員長ト成スノ不可ヲ説キ英仏伊ノ外日本又ハ白耳義ヲ加ヘ之ヲ委員長トシタシト提議シタルカ伊ハ白耳義ヲ加フルヲ好マス日本ノ参加ヲ切望セリ依ッテ佐藤代理大使ハ本邦カ國境画定委員會ニ委員ヲ出シ居ラサルヲ楯トシ一応辞退シタルモ大使會議ノ正員トシテ而モ直接

ナ」ニテ遺骸ニ敬意ヲ表シタル後査問ヲ開始シ二十二日大使會議ニ對シ第一回ノ報告ヲ發電セリ

因ニ同地滞在中日英仏三委員ハ各希臘人ノ私宅ニ寄寓シ伊國委員ノミ旅館ニ在リ情報ノ入手、査問ノ方法等ニ付不統一ナリトテ伊國委員ヨリ抗議アリタル旨当地新聞紙ニ掲載セラレタリ

大使會議ハ二十五、二十六兩日ニ亘リ委員會第一回報告ヲ審査シタルカ(一)事件カ純然タル政治的犯罪ニシテ事前綿密ニ計画セラレタルモノナル事(二)希臘ノ訴追手段ニハ怠慢アルコトヲ認ムルモ右怠慢カ故意ニ出テタルモノナリヤ將又警察組織ノ不完全等ニ基クモノナリヤ分明ナサル事(三)搜索困難ナル為犯人逮捕ノ段取りニ至ラサル事等ヲ列挙セリ、二十五日午後ノ會議ニ於テ英ハ前記報告カ決定的ノモノニ非サルコト並賠償金巨額ナルコトヲ理由トシテ海牙司法裁判所ノ判決ヲ求ム可シト述ヘタルニ對シ伊ハ委員會報告ニ依リニ希臘ノ怠慢ハ疑フノ余地無キヲ以テ大使會議從前ノ決議ニ基キ罰金五千万「リラ」ノ即時引渡ヲ要求シ二十六日午前ノ會議ニテ全会一致ヲ以テ希臘ニ怠慢有リト認め賠償金全部ノ引渡ヲ希臘ニ通

告スルコトニ決シタリ

(d) 希臘ハ二十九日前約ニ基キ大使會議ノ通告ヲ受諾シ曩ニ
瑞西銀行ニ供托シタル五千万「リラ」ヲ伊国政府ニ引渡
スコトヲ命シタルモ訴追ニ怠慢有リトセル決定ニ抗議シ
且ツスカル多額ノ罰金ノ支払ハ歴史上前例無キ事等ヲ述
ヘ正義ノ為本件ヲ再審査シ又海牙國際司法裁判所ノ審議
ニ委ネラレン事ヲ提議セリ

以上ニ依リ大使會議ノ対希要求条項履行ハ全部完了シタル
ルカ之ヨリ先キ九月十日ノ大使會議ニ於テ議長ハ希臘ノ承
諾アリタル旨ヲ述ヘ伊国大使ハ伊国モ亦大使會議ノ条件ヲ
承諾ス可ク其ノ対希要求全部カ希国ニ依リ履行セラルルヲ
俟チ「コルフ」ヨリ撤退ス可キ事ヲ声明シタルカ連盟ニ
於ケル本件討議ノ趨勢ニ鑑ミ英仏ノ熱心ナル勸告有リタル
結果十二日ノ大使會議ニ於テ査問委員會ハ任務開始後五日
以内ニ調査ノ結果ヲ大使會議ニ電報シ大使會議ハ右報告ヲ
審査シ対希条件第五ノ履行アリタルモノト認メタルトキハ
其ノ旨ヲ伊国政府ニ通知シ以テ同政府ヲシテ「コルフ」
撤退ニ関スル声明ヲ可能ナラシム可ク前記条件不履行ノ場
合ハ「コルフ」占領ノ代リニ英仏伊三国共同シテ採ル可

第五四号

(九月二十八日接受)

伊国ハ本二十七日午前八時其占領セル「コルフ」島ヲ希国
官憲ニ引渡セル趣公表セラル

三四七 九月二十七日

在伊国落合大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

大使會議決定ニ関スル伊国新聞論調報告ノ件

第一九九号

(九月二十八日接受)

伊希事件ニ関シ大使會議ニ於テ英大使ノ反対アリタルニ拘
ラズ結局希臘ガ五千万「リラ」ヲ伊国ニ支払フベキ決定ア
リタル旨ノ報道ハ満足ヲ以テ新聞ニ迎ヘラレ是伊国外交ノ
勝利ニシテ「コルフ」占領ノ英断ナカリセバ斯ル成果ヲ得
ル能ハザリシナラムト誇張のニ批評シ居レル有様ナルガ謀
報者ノ内報其他ヲ綜合スルニ本件ニ関連シテ折角良好ナリ
シ伊国ノ対英感情ハ頓ニ悪クナリ之ニ反シテ対仏感情良好
トナレリ客年十一月勞山會議ニ先立チ英仏伊三国外相会見
ノ場所ニ就キ行違アリタル節「カーゾン」ハ「ムッソリニ」
ニ対シ頗ル不快ナル評ヲ為シタルコト後ニ至リ「ム」ニ伝
ハリ之ガ為個人的ニ含ムトコロアル由内々聞込アル処今回
國際連盟等ニ於テ英國委員ガ熾ニ伊国反対ノ態度ニ出デタ

キ制裁手段ヲ大使會議ニ於テ講スルコトトシ其ノ旨希臘ヘ
通告スルコトニ決定シタリ尚「コルフ」占領軍費用ヲ希
臘ニ負担セシム可キヤ否ヤノ点ハ海牙司法裁判所ノ判決ヲ
仰クコトトシタリ

九月二十七日午前八時「コルフ」ニ於ケル伊国軍艦及希
臘驅逐艦ハ各本国旗ヲ掲ケ二十一発ノ礼砲ヲ放ツ各艦乗組
員ハ艦橋ニ整列シ伊艦ヨリハ軍樂ヲ奏シ艦員万歳ヲ唱フ伊
国司令官「シモネッチ」ノ滞在セシ県庁前ニハ伊国兵ノ一
隊整列シ捧銃ノ礼ヲ為シ礼砲ノ響ト共ニ伊国旗ハ県庁及要
塞ヨリ除去セラレタリ次テ伊国旗艦ハ希国旗ヲ掲ケ二十一
発ノ礼砲ヲ発ス同時ニ伊軍司令官ハ県庁前ニテ小蒸汽ニ登
乗シ八時十二分希国旗ハ要塞及県庁ニ掲ケラレ希国驅逐艦
ハ二十一発ノ礼砲ヲ放チ市民ハ熱狂セリ暫クシテ伊国旗艦
ハ出発ノ信号ヲ為セリ、斯クシテ一時世界ノ視聴ヲ聳動セ
シ「コルフ」島占領ノ問題モ終局ヲ告ケタリ

三四六 九月二十七日

在ギリシャ國諸井臨時代理公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

伊国コルフ島ヲギリシャ官憲ニ引渡セル旨公

表ノ件

ル為感情ニ動カサレ易キ当國輿論ヲ惡化セシメタルモノニ
シテ在当地英國大使モ目下対英感情ノ面白カラザルコト及
伊国首相ノ甚ダ感情ニ驅ラレ易キコトヲ憂色ヲ以テ本使ニ
内話セリ又此機會ニ於テ仏國側ハ自己ノ立場ヲモ顧ミ熱心
伊国ノ感情ヲ好クスルノ方法ヲ執リタル形跡アリ(目下当
國新聞ハ政府ノ嚴重ナル監督ノ下ニ立チ居リ評論等モ自由
ナルヲ得ザル有様ニ付上述ノ如キ感情ハ當國政府筋俱一致
セルモノト認メ得ベシ)

英、仏及寿府ヘ転電セリ

三四八 九月二十七日

在仏國佐藤臨時代理大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

大使會議ノ紛争斡旋努力ト伊国側ノコルフ島

撤退決定ニ関スル件

第五四一号

(九月二十八日接受)

伊希紛争事件ハ伊太利ガ連盟ノ仲裁ヲ拒絶スルト俱ニ「コ
ルフ」ヲ占領シタルガ為歐洲政界ノ注目ノ的トナリタルガ
大使會議進デ之ガ解決ニ努力シ九月五日以來連日会合ノ上
希臘ニ対シテハ各種ノ謝罪条件ヲ定メタル外渋谷大佐ヲ委
員長トセル査問委員會ヲ「ヤニナ」ニ派遣シテ犯人ノ搜查

及訴追ヲ監督セシメ其報告如何ニ依リ或ハ罰金トシテ五千万「リラ」全額ヲ支払ハシメ若クハ賠償金額ノ決定ヲ海牙裁判所ニ求ムルコトトシ他方伊太利ニ対シテハ英仏ヨリ極力「コルフ」ノ撤退ヲ慫慂シタルガ為ニ二十七日（査問終了期日）撤退ノコトニ決定シタリ其後九月二十六日ノ會議ニ於テ査問委員會第一回報告ヲ審査シタル結果希臘ニ怠慢アリト認メ五千万「リラ」全額ノ引渡方希臘ニ通告スルコトニ決定シ漸ク結着ヲ見ルニ至リタリ

本件ハ隨時電報ノ答ナリシモ震災ノ為電報差控ヘタル次第ニ付御諒承アリタシ委細郵報ス

三四九 十月三日 在ギリシャ國見田臨時代理公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

國際査問委員會渋谷委員長ノ談話記事ニ關スル件

第五六号 （十月四日接受）

本官発在仏大使宛

第一八号

國際査問委員一行（伊國委員ヲ除ク）ハ本月一日当地着ノ処二、三新聞ハ同委員會ハ「メモス」ノ陳述ニ依リ希臘ノ

第五七号 （十月七日接受）

本官発仏宛電報第一八号ニ關シ

取消ハ三日各關係新聞ニ掲載セラレタルモ「エレフセロス・ロゴス」（御用紙）ハ同記事ヲ以テ渋谷大佐カ「ヤニナ」ヨリノ帰途立寄タル一村長宅ニ於ケル談話ナルコトヲ言明シ且該取消ハ犯罪ノ責任ニ付意見ヲ述ヘタルコトナキ旨ノモノニシテ其他ニ關シテハ何等觸ルル処ナシト註釈ヲ加ヘ他ノ新聞モ右取消ハ伊國公使ノ干涉ニ基クモノナリトシ一般ニ委員長ニ同情ヲ表セリ

同日伊國首席書記官「コスタ・サンセベリノ」來訪取消ヲ送付ノ謝礼ヲ述フルト共ニ取消ニ對スル反駁アリタルコトヲ委員長ニ傳達方依頼シタルニ付右取消ハ大佐ノ發意ニ基クモノナル旨ヲ告ケ一方同大佐ニ之ヲ報シタルハ本四日「コスタ」ト会谈ノ際委員長ハ昨夜同官ヲ往訪シ該取消カ伊國公使ノ要求ニ依ルモノナリトノ記事ハ伊國側ヨリ之ヲ取消サレタキ旨申出タルモ右ハ委員長及日本側ヨリ為スヘキ筋合ナル故拒絕シタル旨語り且委員長ノ談話ト称スルモノノ内容及伊公使ノ注意ノ事実漏洩ニ付テハ委員長ノ婦人秘書ニ疑ヲ抱ク旨ノ口吻ヲ洩セリ將又同大佐ノ取消前ニ伊

無罪ナルコトノ信念ヲ強メ「アルバニヤ」官憲カ該犯行ニ關係有ルコトヲ確信シタルモ「アルバニヤ」政府ハ嫌疑者ト對審スルノ目的ヲ以テ「メモス」ヲ同國領内ニ同伴スル時ハ同人ノ生命ノ保障ハ与ヘ難キ旨答ヘタル為渋谷委員長ハ右ニ對スル對案攻究中突然大使會議ヨリノ電報ニ接シ右事業ヲ中止スルノ已ム無キニ至リタルモ委員會ハ巴里ニ到着後大使會議ニ抗議ヲ為スノ件ヲ留保シタルナリト論シ終リニ同委員長ハ右「メモス」ノ陳述ヲ重要視シ右調書ヲ大使會議ニ提出シ其決定ヲ變更セシメントスルノ希望ヲ有スル旨ヲ語リタル趣ノ記事ヲ掲ケタリ次テ伊國公使館ヨリ右事實ヲ問合セ且同記事取消方ヲ要求シ來リタルニ付渋谷委員長ノ名ニ於テ前記各新聞ニ右記事ノ事實ヲ否認シ同委員長ハ単ニ一記者ニ對シ希臘官憲カ同委員會ニ与ヘタル好遇ニ對シテ謝辭ヲ述ヘタルニ止ル旨ノ取消ヲ請求シ尚伊國公使館ニ右ノ趣申送りタリ右御含ミ迄委細郵報ス

伊、寿府ヘ転電セリ

三五〇 十月五日 在ギリシャ國見田臨時代理公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

渋谷委員長ノ談話記事取消ニ關スル件

國公使カ「コスタ」ヲ當館ニ派シテ大佐ニ取消方ヲ申込ミタルハ事實ニシテ此上追究スル時ハ却テ藪蛇タラシムル惧ナキヲ保セサルニ付此際再ヒ右註釈ノ取消ヲ要求セサル方然ルヘキカト思惟セラルルモ抗議ノ要アラハ御回訓ヲ請フ因ニ本朝委員一行巴里ニ向ケ出發セリ（英委員ハ二日出發済ミ）

在仏大使ヘ転電セリ

三五一 十月五日 在ギリシャ國見田臨時代理公使ヨリ
伊集院外務大臣宛

渋谷大佐談話新聞記事取消ニ關スル件

大正十二年十月五日

在希臘

臨時代理公使 見田寛（印）

外務大臣男爵 伊集院彦吉殿

渋谷大佐談話新聞記事取消ニ關スル件

機密公第九号 （十一月十九日接受）

本件ニ關シ曩ニ要領電票致置候処玆ニ稍詳細ニ之ヲ述ブレバ九月一日ノ Eleverhos Logos（革命政府機關紙）ハ其ノ特派員ト渋谷委員長トノ会見談ナルモノヲ掲ゲ委員長ノ

言トシテ「余ハ始終希臘ノ無辜ヲ信シタリシカ「ヤニナ」ニ到着スルヤ否ヤ同地知事ニ対シ希臘ハスル犯罪ヲ犯ス事無キヲ信スルカ故ニ之ヲ天下ニ認メシムル為余カ全勢力ヲ傾注スヘキ旨ヲ述ヘ置キタルカ希臘ノ無罪ハ公平嚴格ナル調査ノ進行ニ伴ヒ一般ニ認識セラルルニ至ルヘキコトヲ確信シテ之ヲ最初ヨリ發表シ以テ余カ義務ヲ果シタリト信ス又予ハ雅典ヲ經由シテ巴里ニ向フニ当リ希臘官憲ガ委員会ノ事業遂行ニ協力便宜ヲ与ヘラレタルコトヲ感謝スルト共ニ大使會議ノ五千万「リラ」支払ヒ決定ニ付テハ真ニ心痛ニ堪ヘス余ハ幾度ト無ク不平ナル讒誣ヲ貶セリ而シテ予ハ委員会ノ職務ハ未タ終了セルモノト認メス其ノ事業カ重要点ニ達セル此ノ際之ヲ中止スルコトヲ遺憾トス大使會議ノ決定ハ査問ノ継続ヲ妨ケタリ吾人ノ出発ハ一方之ニ対スル吾人カ抗議ノ表示ニシテ他方巴里ヨリノ召喚ニ基クモノナリ又予カ雅典ヲ通過スルハ希臘ニ対スル同情ヲ証明スルモノナリ尚既ニ徵憑ニヨリテ信念ヲ得タル虐殺事件ノ真相カ今後希臘司法官憲ニヨリテ一日モ早く闡明セラレ証明セラレンコトヲ希望ス云々トノ趣旨ノ談話ヲ掲ゲ

le Messager d'Athènes (ヴェニゼロス派) Eleftheros Vi-

使ナリヤヲ確メタル後伊国公使ノ使者ナリトシテ同日ノ「エレフセロス・ロゴス」紙ヲ示シテ渋谷大佐談話ノ実否ヲ問ヒ取消方ヲ忠告シタル折柄渋谷大佐来館シタルニ依リ同人ヲ紹介シタルニ同様ノ質問ヲ繰リ返シタルニ付大佐ハ「ヤニナ」ヨリノ帰途一記者ト五分間ノ会見ヲナシタルモ右新聞記事ノ如キ談話ヲナシタルコト無シト言明シ且ツ取消ハ已ニ取計中ナル旨ヲ答ヘタリ因テ本官ハ参考ノタメ伊国公使ノ閲読シタル関係新聞紙名ヲ全部承知シ度旨問返シタルニ「コスタ」ハ後刻書面ヲ以テ之ニ答フヘキヲ約シテ退去セリ次テ午後六時頃「コスタ」ヨリ前約ニ基キ新聞紙名ヲ列挙シ来リタルカ此等新聞紙ニ対シテハ当館ヨリ渋谷大佐ノ名ニ於テ

『國際査問委員長渋谷大佐ハ希臘新聞殊ニ「エレフセロス・ロゴス」ガ掲ゲタル彼ノ宣言ナルモノヲ絶對ニ否認ス彼ハ八月二十七日ノ犯罪ニ関スル希臘ノ責任ノ問題ニ就キ委員会ノ名ニ於テモ自己ノ名ニ於テモ何人ニ対シテモ其ノ意見ヲ發表セルコトナク単ニ希臘官憲カ同委員会ニ与ヘタル好遇ニ対シテ謝辭ヲ述べタルニ止マル』旨ノ取消ヲ請求シ同時ニ伊国公使ニ右ノ趣申送りタリ

ina (ヴェニゼロス派) 等ハ之カ要領ヲ転載シ次テ九月二日ノ「エレフセロス・ロゴス」紙ハ査問委員会ハ第一回報告ヲ大使會議ニ提出シタル後査問ヲ続ケタルカ「メモス」ノ証言ニ依リ希臘ノ無辜ナルコトノ信念ヲ強メ「アルバニア」官憲ガ同犯行ニ関係アルコトヲ確信シタルモ「アルバニア」政府ハ嫌疑者ト對質セシムルノ目的ヲ以テ「メモス」ヲ同国領内ニ同伴スルトキハ同人ノ生命ノ保障ハ与ヘ難キ旨ノ返電ニ接シタルタメ渋谷委員長ハ之ニ対スル對策攻究中突然大使會議ヨリノ電報ニ接シ其ノ事業ヲ中止スルノ已ム無キニ至リタルモ委員会ハ巴里ニ到着後大使會議ニ抗議ヲナスノ權ヲ留保シタルナリト記載シ終リニ同委員長ハ右「メモス」ノ証言ヲ重要視シ右調書ヲ大使會議ニ提出シ其ノ決定ヲ變更スルカ若クハ尠クトモ彼地ニ於ケル氣勢ヲ轉換セントスルノ希望ヲ有スル旨ヲ語リタル趣ノ記事ヲ掲ゲ Eleftheros Vima ハ右ト大体同様ノ論說ヲ掲載シテ日本軍人ノ正義觀念ヲ稱揚シ其他二三新聞ニモ同趣旨ノ論評ヲナセリ

二日午前十一時半頃伊国公使館一等書記官 le Prince Francesco Costa Sanseverino 来館本官ニ対シ臨時代理公

右取消ハ三日各關係新聞ニ掲載セラレタルモ「エレフセロス・ロゴス」ハ同記事ヲ以テ渋谷大佐ガ「ヤニナ」ヨリ「アムフィロヒア」ヘノ旅途立寄りタル一村長宅ニテ發表セル意見ナル事ヲ特派員ノ責任ニ於テ言明シ且ツ該取消ハ単ニ八月二十七日ノ犯罪ニ対スル希臘ノ責任ニ就テノ渋谷大佐ノ宣言ノ点ノミニ関スルモノナル旨ノ注釈ヲ加ヘ

Journal d'Athènes (革命政府派) 及 Eleftheros Vima ハ右取消ヲ以テ伊国公使「モンタニヤ」ノ干渉ニ基クモノナリトシ右取消ニモ拘ラス渋谷大佐ノ宣言ヲ確實ナリト信スル旨ヲ掲ケ其他ノ新聞モ多ク同様ノ趣旨論評ヲ下セリ同日「コスタ」来訪右取消ヲ送付ノ謝礼ヲ述フルト共ニ「エレフセロス・ロゴス」ノ記事ヲ示シ取消ニ対スル反駁有リタルコトヲ委員長ニ傳達方依頼シタルニ付本官ハ右取消カ大佐ノ発意ニ基クモノナル旨ヲ告ケタルニ伊国公使ノ申出ハ勸告 (Conseil) ニ過キササルモノナリト答ヘタリ右及報告候也

三五一 十月九日

在伊国落合大使ヨリ
伊集院外務大臣宛

伊国・ギリシャ紛争事件後報ニ関スル件

大正十二年十月九日

在伊

特命全權大使 落合謙太郎（印）

外務大臣男爵 伊集院彦吉殿

伊希紛争事件後報ノ件

公第一二四号

（十一月二十一日接受）

希臘「アルバニヤ」国境画定委員会伊国委員 General Terlini 以下四名九月二十七日 Janina S. Quaranta 街道ニ於テ希国人ト目セラルル一団ニ襲撃暗殺セラレタル事件ニ原因スル最近伊希兩國紛争ノ顛末ハ累次電報ノ通りナル処愈々大使會議ノ決議ニ因リ九月二十九日伊太利銀行ハ瑞西「ナショナル」銀行ヲ通シテ希国賠償金五千万利ヲ受領シ直チニ伊国々庫ニ繰入レタル旨發表セリ

右ニ付政府ハ即日次ノ如ク公表セシメタリ「伊国政府ハ希国ニ対シ賠償金五千万利ヲ要求シ而テ本日之ヲ受領セルカ右ハ決シテ財政上ノ利益實現ヲ目的トセルモノニアラスシテ政治道德的制裁ヲ課セントセルモノナリ而シテ Mussolini 首相ハ前記五千万利ノ内一千万利ヲ希臘避難民及 Corfu 其他希臘各地ニ散在避難セル「アルメニヤ」人救護

費トシテ当地 Sovrano ordine militare di Malta (本組合

ハ十一世紀十字軍当時基督教徒保護ノ為メニ「ゼルサレム」ニ設立セラレタル貴族連ノ一組合ニシテ宗教ヲ基礎トシ人道博愛ヲ目的トスルモノニシテ由来法皇庁ニ直屬ス現ニ國際的組織ニシテ其組合長奥国人 Galeazzo Thun eb Holsenstein 公爵ニシテ羅馬本部長トシテハ伊国人 Lambertengli 伯爵在任ス本年二月本組合ハ Mussolini 首相ニ対シ同組合ノ「シェヴァリエー」勲章ヲ贈呈シタリ其現在ノ如キ組合名トシテハ中世紀地中海ニ於ケル海賊退治ヲナシ基督教國ノ海運ヲ保護シ Malta 嶋ヲ其本拠トナセシヲ以テナリ）ニ寄贈シ其配分方ヲ依嘱シタリ」

右發表ハ伊国人一般ニ多大ノ好感ヲ以テ迎ヘラレタルカ本事件モ右ニテ一ト先ツ段落ヲ告ケタリ其後間モナク在雅典伊国総領事ハ Corfu 砲撃ノ際殺傷セラレタル希臘人家族ノ為ニ百万利ヲ Corfu 知事ニ贈リ其処置方ヲ依頼シタリト云フ

右及報告候也

三五三 十月十三日

在仏国石井大使ヨリ
伊集院外務大臣宛

伊国・ギリシャ紛争事件ノ報告並ニ査問委員

会最終報告書送付ニ関スル件

付屬書 伊国・ギリシャ紛争事件報告

大正十二年十月十三日

在仏

特命全權大使子爵 石井菊次郎（印）

外務大臣男爵 伊集院彦吉殿

伊希紛争事件報告送付ノ件

公第六〇五号

伊希紛争事件報告並査問委員会最終報告書別添ノ通及送付候条御査閲相成度候也

（付屬書）

伊国・ギリシャ紛争事件報告

希臘アルバニア国境画定委員会付伊国委員長テリニー將軍 (Terlini) ハ軍医正ルチー (Corti) 中尉ボナチーニ (Bonacini) 通譯グラヴエリー (Graveri) ヲ從ヘ画定事業実施ノ為メ八月二十七日午前九時自動車ニ乗シテ Janina ヲ発シ Kakavia ニ向フ途上暴徒ノ襲撃ヲ蒙リ一行全部 (運転手共) 不慮ノ最後ヲ遂ケタリ虐殺ノ悲報伊太利ニ伝

ハルヤ国民ノ激昂其ノ極度ニ達シ希臘ニ対スル反感激烈ナルモノアリ伊国政府モ亦犯罪地カ希臘国版図内ナルト又犯罪カ希臘側ノ汎エビル運動ニ原因セルニ鑑ミ希臘政府ノ責任ヲ追求スルニ決シ八月二十八日在アテネ伊国公使モンタニ訓電シ(イ)希臘政府ノ謝罪(ロ)殉難者ニ対スル敬弔ノ方法ヲ講スルコト(ハ)犯罪人ノ訴追並其ノ嚴重ナル処罰(ニ)賠償金五千万リラノ支払等ヲ希臘政府ニ要求セシメタルカ希臘ノ受諾ナカリシカ為メ遂ニ三十一日ニ至リ制裁手段トシテコルフー並其ノ付近ノ島嶼ヲ占領シタリ依テ希臘政府ハコルフー占領ノ不当ヲ鳴ラスト共ニ國際連盟規約ノ規定ニ從ヒ本件ヲ國際連盟ノ審理ニ移サントシ在ゼネバ希国代表者ポリチスヲシテ連盟理事会ニ対シ(イ)犯罪人ノ搜索、審問及判決(ロ)理事会ノ任命スル第三国委員ヲ参加監督セシムルコト(ハ)理事会ノ任命スル法官三名(希臘、伊太利及第三国人各一名)ヲシテ希臘ノ支払フヘキ公正ナル賠償額ノ決定ヲ為サシムルコト(ニ)右賠償額支払ノ保証トシテ希臘政府ハ五千万リラヲ瑞西銀行ニ供託スルコト等ノ条件ヲ提議セシメタリ然レトモ伊太利ハ連盟ニ於ケル英、白其他ノ諸國ノ態度自国ニ不利ナルヲ觀取シタルカ為メ本問題ヲ連盟ノ管轄

ノ下ニ置クコトヲ好マス極力反対運動ヲ試ミ已ムヲ得スンハ連盟ヨリ脱退スヘシトノ意向ヲ暗々裡ニ洩シタルヲ以テ連盟理事会ニ於テモ強圧手段ヲ執ルコト能ハス斯克テ本問題ハコルフノ占領及伊太利ノ連盟ノ管轄拒絶ト相俟チテ欧州政界ノ注目ノ的トナリ第二ノセラエヴォー事件トシテ近東ノ一角ニ暗雲低回スルニ至レリ茲ニ於テ大使會議ハ希臘アルバニア国境画定委員会カ九百二十一年十一月五日ノ大使會議決議ニ基キテ組織セラレタル關係上進テ之カ解決ニ尽力スルコトニ決シ九月五日以來連日会合シ円満ナル解決方法ノ案出ニ腐心セリ先ツ大使會議ハ希臘ノ責任ノ有無ヲ審査シタルカ前記国境画定委員会カ國際の委員会ノ性質ヲ有シ且ツ希臘側ニ於テモ該委員会ノ組織ヲ受諾シ委員會ノ任務ノ達成ニ協力スヘキ旨ヲ声明シタルニ鑑ミ希臘ハ該委員会ノ事業遂行ニ際シ委員ノ安全ヲ保障スヘキ義務アリトナシ此ノ点ニ於テ希臘側ニ責任アリト認メ九月七日ノ會議ニ於テ大要左ノ通ノ對希臘要求條件ヲ定メタリ

一、在アテネ英仏伊外交代表者ニ對スル希臘最高軍憲ノ謝罪

二、希臘内閣諸大臣参列ノ下ニ在アテネ旧教寺院ニ於テ葬

キテ國際司法裁判所ノ決定スヘキ賠償額ノ支払ヲ約スルコト

右支払ノ保証トシテ希臘政府ハ瑞西國立銀行ニ五千万リラヲ供託スヘク右供託金中ヨリ國際司法裁判所ノ定ムル額ヲ伊國政府ニ支払フコト

前掲条件第六査問委員会ノ構成ニ関シ伊國ハ最初自國委員ヲ委員長トナシタキ意向ナリシモ英仏ハ事件ノ性質ニ鑑ミ當事國ヲ委員長ト為スノ不可ヲ説キ英仏伊三国ノ外日本又ハ白耳義ヲ加ヘ之ヲ委員長トシタシト提議シタルカ伊ハ白耳義ヲ加フルコトヲ好マス（白耳義カ連盟ニ於テ伊太利ニ反対ノ態度ヲ採リタルカ為メナリ）日本ノ参加ヲ切望セリ（伊國ハ自國ヨリ委員長ヲ出ササル場合ニハ日本ヲ委員長トスヘキ旨ノ訓令ヲ受ケタル趣ナリ）依テ佐藤代理大使ハ本邦カ国境画定委員会ニ委員ヲ出シ居ラサルヲ理由トシテ辞退シ白耳義ノ推薦ニ務メタルモ大使會議ノ正員ニシテ然モ直接利害關係ナキ日本ヲ委員長トスルトキハ輿論ニ満足ヲ与ヘ公正ナル解決ヲ期待シ得ヘシトテ英仏伊三国ヨリ再三日本ノ就任應諾ノ次第アリタルヲ以テ在ゼネバ石井大使ノ承認ヲ得タル後在仏帝國大使館付陸軍武官渋谷大佐ヲ委

儀執行

三、葬儀当日伊國軍艦ヲ先頭トシテ英仏軍艦 Phalère 灣ニ投錨シ希臘艦隊ハ儀式後三国軍艦ニ對シ順次二十一発ノ弔砲ヲ発シ軍艦旗ハ半旗トスルコト

四、Preveza ニ於テ殉難者遺骸乗船ノ際軍旗ヲ携行セル希臘軍隊ヲシテ陸軍礼式ヲ行ハシムルコト

五、希臘政府ハ犯人ノ搜索及処罰ニ関シ有ラユル手段ヲ講スヘキコトヲ約スルコト

六、英仏伊日四國委員（日本委員ヲ議長トス）ヨリ成ル査問委員会ヲ組織シ希臘政府ノ行フ犯人ノ搜索及訴追ヲ監督セシメ九月二十七日迄ニ完了セシムルコト

該委員会ハ大使會議ニ報告ヲ提出スルコト

希臘政府ハ委員會ノ安全ヲ保障シ其ノ任務ノ達成ニ有ラユル便宜ヲ供与シ且ツ委員會ノ費用ヲ負担スルコト

委員會ノ任務達成上必要ト認メタル場合ニハアルバニア領土内ニ立入りアルバニア官憲ノ協力ノ下ニ搜索訴追ヲ行フコトアルヘクアルバニア政府ニ對シ之カ為メ必要ナル手段ヲ執ルコトヲ勸告スルコト

七、希臘政府ハ大使會議ノ承認ヲ得タル委員會報告書ニ基

員長トシテ派遣スヘキ旨九月七日ノ大使會議ニ於テ聲明シタル処之ニテ解決ノ曙光ヲ見タリトテ英仏伊三国大使ハ鄭重ナル謝辭ヲ述ヘタリ

前掲大使會議要求條件ニ對シテハ伊太利及希臘側ニ於テモ別段ノ異存ナク只希臘ハコルフノ撤退促進方熱望シ来リタルヲ以テ九月十日ノ會議ニ於テ英仏側ヨリ公式謝罪ノ履行、犯人ノ発見及保証金ノ供託アリタルトキハ犯人ノ処罰及賠償金ノ現実ナル支払ヲ待タスコルフヨリ撤退シテハ如何希臘カ大使會議ノ要求ヲ容レタルニモ拘ラスコルフヨリ撤退セサルトキハ事件ヲ紛糾セシメ延テハ大使會議ノ威信ニモ關係スヘク連盟ノ反対及輿論ノ激昂烈シカルヘシ之カ緩和策トシテハ是非トモ撤退ノ決行ヲ要スル旨勸告シタルニ伊國大使ハコルフノ占領ハ固ヨリ希臘ヲシテ伊太利ノ要求ヲ容レシムル手段トシテ執リタルモノニ過キサラヲ以テ對希臘要求條件全部ノ履行アリタルトキハコルフノ撤退ニ異議ナシ但シ犯人ノ処罰及賠償金ノ現実引渡ナキ場合ニ於ケル撤退ハ本國政府ノ訓令ヲ待チテ答フヘシト述ヘ九月十二日ノ會議ニ於テモ伊太利ハ依然トシテ条件全部ノ完全ナル履行アリタル後コルフヨリ撤退スヘシト主張シタ

ルニ対シ英仏側ハ連盟ニ対スル思惑上ヨリ云フモ撤退ノ時期又ハ撤退ノ条件ナリトモ明確ニ声明シテハ如何ト懸念シタル結果査問委員会ヲシテ任務開始後五日以内ニ調査ノ結果ヲ大使會議ニ電報セシメ大使會議ニ於テ右報告ヲ審査シタル後對希臘要求条件第五ノ履行アリタルモノト認メタルトキハ其旨ヲ伊国政府ニ通知シ以テコルフー撤退ニ関スル声明ノ実現ヲ可能ナラシムヘク前記条件不履行ノ場合ニハコルフー占領ノ代リニ英仏伊三国ノ共同シテ執ルヘキ制裁手段ヲ大使會議ニ於テ講スルコトトシ其旨希臘政府ニ通告シタリ次テ九月十三日ノ大使會議ニ於テ伊太利大使ハ二十七日コルフーヲ撤退スヘキ旨ヲ声明シ只此ノ場合希臘力犯人ノ訴追ヲ忠実ニ履行セサルトキハ伊国ノ面目ヲ毀クルコトナルヲ以テ連合側ノ執ルヘキ制裁ヲ今直チニ審議アリタク此ノ場合ニ於テハ伊国ハ海牙司法裁判所ノ判決ヲ待ツコトナク刑罰トシテ希臘ノ供託金五千万リラ全部ノ引渡ヲ受ケタキ所存ナリト述ヘ討議ノ結果（一）コルフー撤退期日ヲ二十七日トスルコト（二）右撤退期日迄ニ犯人発見セラレス且ツ希臘力犯罪ノ搜索及訴追ニ関シ怠慢アル場合ニ於テハ大使會議ハ希臘ヲシテ刑罰トシテ五千万リラ全部ヲ伊国ニ

引渡サシムルコト（三）右ノ場合ニハ海牙司法裁判所ニ對シ賠償金額ノ決定ヲ求メス只コルフー占領費ニ関スル判決ヲ要求スルコトナレリ

渋谷委員長ハ仏国委員ラコンブ中佐（參謀本部付）ト共ニ九月十三日巴里発プリンデシニ於テ伊国委員ボー大佐ト合シ十七日ヤニナ着（英國委員ハーレン少佐ハコンスタンチノープルヨリアテネ經由ヤニナ直行セリ）直チニ調査ヲ開始シ二十二日第一回報報告ヲ大使會議ニ提出セリ該報告ハ決定的ノモノニアラサルモ（イ）事件カ純然タル政治的犯罪ニシテ事前綿密ニ計画セラレタルモノナルコト（ロ）希臘ノ訴追手段ニハ怠慢アルコトヲ認ムルモ右怠慢カ故意ニ出テタルモノナリヤ將又警察組織ノ不完全ニ基因スルモノナルカ分明ナラサルコト（ハ）搜索困難ナルカ為メ犯人逮捕ノ段取りニ至ラサルコト等ヲ列挙セリ九月二十五日ノ大使會議ニ於テ英國大使ハ右報告カ決定的ノモノニアラサルコト並賠償金巨額ナルコトヲ理由トシテ海牙司法裁判所ノ判決ヲ求ムヘシト主張シタルニ對シ伊太利大使ハ委員會ノ報告ニ依ルモ希臘ノ怠慢ハ疑ヒノ余地ナキヲ以テ九月十三日ノ決議ニ基キ罰金五千万リラノ即時引渡アリタシト要求シ佐藤代理大使

ハ事件ノ性質殊ニ國際連盟ニ於ケル小国ノ主張ニ鑑ミ本件ハ慎重ナル審議ヲ要スヘク前記報告ハ決定的ノモノナラサルニ依リ第二回ノ報告ヲ待チテ決定スルモ遅カラサルヘシト述ヘタルニ議長ハ希臘力未タヤニナ地方官憲ヲ免職セス又犯行後間モナク現場ニ至リタルアルバニア國境画定委員會付希臘委員ノ曖昧ナル行動ニ徴スルモ希臘側ノ怠慢ハ并護ノ余地ナク殊ニ委員會報告ニモ希臘側ニ怠慢アリト推定シ得ヘキ筋アルヲ以テ当然罰金ヲ課スコトトスヘク只其ノ

伊国・ギリシャ紛争事件法律家會議ノ開催決定ニ関スル件

第二三六号

（十一月十三日接受）

在ベルギー國安達大使ヨリ

伊希臘紛争事件法律家會議ハ仏國「フロマジヨ」ノ拠所ナキ差支ヘノ為「カーゾン」卿ヨリ本月中成ルヘク速ニ倫敦

ニテ会见スル様提議アリタルモ各員交渉ノ末十二月四日壽府ニテ開催ノ事ニ決定セリ同會議ニハ伊國側ハ「ローラン・ド・リッチ」ノ外顧問トシテ羅馬大学教授「カバリエリ」出席スヘク又英國「バックマスタ」卿モ國際法顧問ヲ常同スル外在英白國大使ノ來報ニ依レハ「セシル」卿自身モ顧問ノ格ニテ壽府ニ同行スル由英、仏、伊ヘ転電セリ

三五五 十一月十六日

在ベルギー國安達大使ヨリ

伊希臘紛争事件ニ関連シテ生ジタル法律問題

紛争事件法律家會議ニテ決定スベキ五問題ニ

関スル件

付記一

伊国・ギリシャ紛争ニ関連シテ生ジタル法律問題

二 伊国・ギリシャ紛争事件ニ関連シテ生ジタル法律問題ニ對スル訓令案（國際連盟係）

三五四 十一月十一日

在ベルギー國安達大使ヨリ

伊希臘紛争事件ハ茲ニ決着ヲ告クルニ至リタリ

前日ノ留保ヲ撤回シ伊太利ノ意見ニ賛成シタルカ為メ大使會議ハ全会一致ヲ以テ希臘ニ怠慢アリト認メ賠償金全部ノ引渡ヲ希臘ニ通告シタルニ希臘政府ニ於テモ右決定ヲ承諾シタルヲ以テ伊希臘紛争事件ハ茲ニ決着ヲ告クルニ至リタリ

第二四二号

往電第二三六号ニ関シ

本件法律家九人ノ會議ニテ決定スヘキ五問題ノ文言ハ御入手ノ事ト存スル処右ハ連盟ノ死命ヲ制スルモノテ殊ニ第四問ハ支那、西比利亞等ノ対岸ニ控ユル日本トシテハ痛切ナル利害ヲ感スル次第テ最モ細心ニ研究中ナルモ各同僚ヨリ追々其ノ意見ヲ内示シ本使ノ所見ヲモ求ムルニ付本使ハ成ルヘク最後迄意見ヲ開陳スル事ヲ避ケ結局学理ノ命スル所ト本邦永遠ノ利益トヲ調和シ且連盟ノ健全ニ發達スルヤウ画策スル考ヘナルカ是迄ノ研究ニ依レハ第一問及第二問ノ答ハ「no」、第三問ノ答ハ「yes」、第四問ノ答ハ純粹ノ学理トシテハ「no」、第五問ノ答ハ大体ニテ相当ノ取締ヲ宜シタ場合ニノミ責任ヲ生スルトスヘキモノカト存ス

九人ノ會議ハ全ク一個ノ法曹家トシテノ意見ヲ戰ハスノミテ何等政府ヲ拘束シナイ立前テアルカ實際ハ之ニ反スルノデ石井大使トモ充分連絡ヲ保ツテ措置スル筈ナルモ成ルヘク速ニ御高見御電訓ヲ請フ

（付記一）

伊國・ギリシヤ紛争ニ関連シテ生ジタル法律問題

of Articles 12 to 15 of the Covenant, when they are taken by one member of the League of Nations against another member of the League without prior recourse to procedure laid down in those articles?

5. In what circumstances and to what extent, is responsibility of a state involved by commissions of a political crime against foreigners in its territory.

1. Le Conseil, saisi par un Membre de la Société des Nations d'un différend présenté par ce Membre comme "susceptible d'entraîner une rupture" conformément aux termes de l'article 15 du Pacte, doit-il, avant tout autre examen, soit à la demande de l'autre partie, soit d'office, se prononcer sur le point de savoir si, dans l'espèce, une telle qualification est bien fondée?
2. Le Conseil, saisi, conformément à l'article 15, paragraphe 1er, par un des Membres de la Société des Nations, doit-il, soit à la demande d'une partie, soit d'office, surseoir à l'examen du différend quand, par une autre voie, se poursuit, du consentement des parties, la solution de ce différend?
3. L'exception déduite de l'article 15, paragraphe

1. Is the Council, when seized at the instance of a member of the League of Nations of a dispute submitted, in accordance with the terms of Article 15 of the Covenant by such member, as "likely to lead to a rupture" bound, either at the request of other party or on its own authority, and before enquiring into any other point, to decide whether in fact such description is well founded?

2. Is the Council, when seized of a dispute in accordance with Article 15, paragraph 1 of the Covenant at the instance of a member of the League of Nations, bound, either at the request of a party or on its own authority, to suspend its enquiry into the dispute when with the consent of the parties, settlement of the dispute is being sought through some other channel?

3. Is a objection founded on Article 15, paragraph 8 of the Covenant the only objections based on merits of dispute on which the competence of the Council to make enquiry can be challenged?

4. Are measures of coercion which are not meant to constitute acts of war consistent with the terms

8, du Pacte, est-elle la seule exception d'incompétence tirée du fond, qui puisse être opposée à l'examen du Conseil?

4. Des mesures de coercion qui ne sont pas destinées à constituer des actes de guerre, sont-elles conciliables avec les termes des articles 12 à 15 du Pacte, quand elles sont prises par un Membre de la Société des Nations contre un autre Membre de la Société, sans recours préalable à la procédure prévue dans ces articles?

5. A quelles conditions et dans quelles limites la responsabilité de l'Etat se trouve-t-elle engagée par le crime politique commis sur des étrangers sur son territoire?

（右問題仮訳）

一、 国交断絶ニ至ルノ虞アルモノトシテ規約第十五条ニ基キ連盟國ノ提出シタル紛争力該國ノ申出ニ依リ理事会ニ付託セラレタル場合ニ於テ理事会ハ相手方ノ請求ニ依リ又ハ自己ノ職權ヲ以テ他ノ点ノ審査ニ先チ右申立力實際理由アリヤ否ヤノ決定ヲ為スコトヲ要スルヤ

二、連盟国ノ申立ニ依リ規約第十五条第一項ニ基キテ紛争カ理事会ニ付託セラレタル場合ニ於テ右紛争カ当事国双方ノ合意ヲ以テ他ノ手段ニ依リ解決中ナルトキハ理事会ハ当事国ノ請求ニ依リ又ハ自己ノ職權ヲ以テ紛争ノ審査ヲ中止スルコトヲ要スルヤ

三、規約第十五条第八項ニ基ク異議ハ理事会ノ審査權限ヲ争ヒ得ヘキ唯一ノ異議（紛争事実ニ関スル異議）ナリヤ

四、連盟国カ他ノ連盟国ニ対シ規約第十二条乃至第十五条ニ規定セラレタル手続ニ依ルコトナクシテ戦争行為ヲ構成スルモノト看做サレサル強制手段ヲ執リタル場合ニ於テ右手段ハ前記諸条ノ規定ト両立スルモノナリヤ

五、自國ノ版図内ニ於テ外國人ニ対シ行ハレタル政治的犯罪ニ付國家ハ如何ナル場合及範圍ニ於テ責任ヲ負フモノナリヤ

前記五箇ノ問題ハ法理的ニ解決スルコト極メテ困難ナルノミナラス仮ニ法理的ニ解決スルモノ之ヲ實際ニ適用スルコトハ更ニ困難ニシテ多クノ場合ニ於テハ今回ノ伊太利希臘問題ノ如ク事實上ノ解決ニ委セララルル場合多カルヘシト信ス加之右問題ハ伊希臘紛争事件解決ノ方便トシテ——即連盟ノ

權限其ノ他ニ関シ強硬論ヲ唱フル者ヲ緩和スルノ手段トシテ——提出セラレタルモノト認メラレ現ニ一部ニハ今回ノ法律家委員會ニ於テモ満足ナル決定ニ達セサルヘシト觀測スル者モアル程ニシテ研究ノ実益モ少カルヘシト思惟セララルモノ一応ノ意見ヲ茲ニ述ヘントス

第一、理事会ハ之カ決定ヲ為スノ要アリト解ス

本問題ニ関シテハ連盟規約等ニ何等ノ規定ナキモ凡ソ紛争事件ノ審理ヲ為スニ當リテハ事件ノ提起ガ理由アリヤ否ヤハ第一ニ之ヲ決定スルニ非サレハ之カ審理ヲ進ムルコト能ハサレハナリ即理事会ハ相手方ノ請求アル場合ハ勿論其ノ請求ナキ場合ニ於テモ自ラ理由ノ存否ニ付決定ヲ為スノ要アリト認メラル

第十五条第一項ニ依レハ理事会カ審査ヲ為スカ為ニハ

一、国交断絶ニ至ルノ虞アル紛争ノ發生シタルコト

二、右紛争カ第十三条ニ依ル仲裁裁判ニ付セラレサルコト

三、事務総長ニ対シ通告アリタルコト

ノ三条件ヲ具備スルコトヲ要スルヲ以テ理事会ニ対シ紛争ノ付託アリタルトキハ理事会ハ之等条件ヲ具備セリヤ

否ヤニ付第一ニ審査ヲ為ササルヘカラス

右ノ中ニ及三ニ関シテハ何等注意ヲ要スルモノナキモノノ紛争カ「国交断絶ニ至ルノ虞アル」モノナリヤ否ヤニ関シテハ理事会ニ於テモ特ニ慎重ナル審査ヲ為スノ要アルヘシ、勿論紛争カ当事国カ事件ヲ理事会ニ付託スルニ付テハ該國ニ於テ紛争カ国交断絶ニ至ルノ虞アルモノト認定スレハ足ルヘシト雖理事会カ審理ヲ為スニ付テハ之トハ別ニ果シテ紛争カ右ノ如キ虞アルモノナリヤ否ヤハ自ラ之ヲ決定スルノ要アルヘシ殊ニ理事会ニ対スル濫訟ヲ防止スルカ為ニハ一層其ノ然ルヲ見ル

第二、第二問ニ関シテハ当事国双方ヨリ又ハ事件ヲ理事会ニ付託シタル当事国ヨリ審理中止ノ請求アリタルトキ若ハ相手方ヨリ中止ノ請求アリ付託國カ之ニ対シ異議ヲ申立テサルトキハ理事会ハ其ノ審理手続ヲ中止スルコトヲ要スルモノト解スルモ然ラサル場合ニ於テハ中止ノ義務ナカルヘシ

本来一旦理事会ニ付託セラレタル事件ニ関シ当事國カ合意ヲ以テ他ノ方法ニ依リ解決ヲ試ムル場合ハ理事会ニ対シ事件ノ取下又ハ之カ審理ノ中止ヲ請求スルコト多カル

ヘキヲ以テ此ノ場合ハ論ナク又取下若ハ中止ヲ請求セサル場合ニ於テモ當事國ノ意思ハ少クトモ理事会ノ審理ヲ以テ最後ノ解決手段ト為スモノト一般のニハ認メ得ヘキカ故ニ理事会ハ自ラ其ノ裁量ニ依リ審理手続ヲ中止スルコトハ勿論其ノ自由ナルヘシ然レトモ當事國ノ意思カ果シテ常ニ然リヤ否ヤハ明カナラサルカ故ニ當事國ヨリ何等ノ申出ナキ以上ハ理事会トシテ審理ヲ中止スヘキ義務ナシト解ス

尚實際ノ便宜ヨリ論スレハ當事國カ合意ヲ以テ他ノ解決方法ヲ講スル以上多クノ場合ニ於テハ理事会ハ其ノ審理手続ヲ中止スルコト至当ナルモ或ハ理事会ノ審理モ同時ニ続行スル方解決ヲ速カナラシムルカ如キ場合ナキニ非サルヘシ

第三、唯一ノ異議ナリト解ス

蓋シ規約第十五条ノ規定ヲ見ルニ第一項ニ依リテ連盟國ハ国交断絶ニ至ルノ虞アル紛争ニシテ第十三条ニ依ル仲裁裁判ニ付セラレサルトキハ之ヲ連盟理事会ニ付託スヘキコトヲ一般的ニ約セルモノナルカ故ニ特ニ明文ノ規定ヲ以テ除外例ヲ設ケサル以上理事会ノ權限ハ之ヲ争フヘ

カラサルモノト解スルヲ正当トスヘシ

国際連盟ノ成立以前ニ於ケル国際紛争ノ処理ニ関スル制度ハ義務的仲裁裁判ノ制度スラ一般のニ確定スルニ至ラス国家ト国家トノ間ニ立チテ救正ヲ為スノ組織完全ナラサリキ是特ニ国際連盟ナルモノヲ設立シテ国際協力ノ促進軍備ノ縮小等ト共ニ右紛争ノ処理ニ関シテモ連盟規約中ニ紛争処理ニ関スル規定ヲ設ケタル所以ナリ即国交断絶ニ至ルノ虞アル紛争發生シタルトキハ仲裁裁判ニ付スルニ非サレハ必ス之ヲ連盟理事会ノ審査ニ付託シ以テ紛争ヲ平和的ニ解決スヘキコトヲ特ニ連盟規約ニ定メタルモノナリ斯クノ如クナルヲ以テ規約ノ規定ヲ待タスシテ理事会ノ権限ヲ争ヒ得ヘキモノトセハ前記ノ趣旨ハ遂ニ没却セララルニ至ルヘシ唯第十五条第八項ハ各国ノ主權ヲ尊重シ専ラ当該国ノ管轄ニ属スル事項ニ関スル紛争ニ付当該国ノ請求ニ依リテ理事会ノ権限ニ属セサル場合ヲ規定シタルノミ

故ニ同項ニ基ク異議ハ理事会ノ権限ヲ争ヒ得ヘキ唯一ノモノナリト解セサルヘカラス

（紛争力「国交断絶ニ至ルノ虞ナキ」モノナル等第十

ナルコト前述ノ如シ

果シテ然ラハ国際紛争發生シテ外交手段ニ依リ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルニ於テハ連盟国タル以上報復等ノ強制手段ニ訴ヘスシテ規約所定ノ手續ヲ執ラサルヘカラサルコト論ナキカ如シ或ハ規約第十二条ニハ国交断絶ニ至ルノ虞アル紛争云々トアルカ故ニ右ノ如キ虞ナキモノニ付テハ理論上尚報復等ノ手段ヲ執ルノ余地アリト解スルモノ有ランモ報復ニ依ルニ非サレハ解決シ得ラレサル紛争ノ如キハ之ヲ以テ右ノ虞ナキモノトナスコトヲ得サルヘク況ンヤ当事国ノ一方ニ於テ執レル報復手段ノ如キハ他方ニ於テハ之ヲ戦争行為トモ見得ヘキニ於テヤヤ更ニ報復等ノ關係ヲ離レ單ニ規約ノ規定ノミヨリ論スルトキハ規約第十二条末段ニハ「戦争ニ訴ヘサルコトヲ約ス」ト規定スルカ故ニ戦争行為ニ非サル強制手段ヲ執ルハ一見差支ナキカ如キモ既ニ仲裁裁判ニモ亦理事会ノ審査ニモ付セサルコト自身カ規約違反ナルカ故ニ更ニ強制手段ヲ執ルコトハ第十二条乃至第十五条ノ精神ニ反スルコト勿論ナリト解セラル或ハ仲裁裁判若ハ連盟理事会ノ審査ニ付シツツ戦争行為ト為ラサル強制手段ヲ執ルハ一

五条第一項ノ要件ヲ備ヘサルノ理由ニ依ル異議ノ如キハ勿論別問題ナリ）

第四、兩立セサルモノト解ス

連盟国間ニ国交断絶ニ至ルノ虞アル紛争發生スルトキハ連盟国ハ事件ヲ仲裁裁判又ハ連盟理事会ノ審査ニ付スヘキモノナルカ故ニ苟モ紛争力右ノ如キ虞アル以上ハ其ノ手續ヲ執ラサルヘカラス故ニ何等右ノ手續ヲ執ラサルハ其ノ事実ノミヲ以テ既ニ規約違反ト謂ハサルヘカラス此ノ点ニ関シテ特ニ研究スヘキハ規約第十二条乃至第十五条ト從來認メラレタル国際紛争ノ平和的処理方法タル復仇等トノ關係ナリトス惟フニ從來ノ国際慣例ニ於テ復仇等ノ強制手段ヲ認メタルハ前述ノ如ク紛争ノ処理ニ関スル制度確立セス紛争ノ為メ自然戦争ヲ惹起スルノ傾向多キヲ以テ戦争ニ非サル一種ノ強制手段ヲ認メ之ニ依リ紛争ヲ平和的ニ解決シ以テ戦争ヲ回避セントスルノ趣旨ニ外ナラス

而シテ一方連盟規約ニ於テ十二条等ノ明文ヲ設ケタルモ亦報復等ノ強制手段ヲ認ムルト全然同一ノ趣旨ニ出テタル外從來ノ国際慣例タル紛争処理方法力不完全ナルカ為

見差支ナク從テ此ノ場合ト比較シテ裁判又ハ審査ニ付セスシテ強制手段ニ訴フルハ差支ナシト論スルモノアランモ裁判又ハ審査ニ付シツツ強制手段ヲ執ルハ直接第十二条第一項ノ明文ニ反セストスルモ其ノ趣旨ニ反スルコトハ明ナルカ故ニ採ルヘカラサル議論ナリト謂ハサルヘカラス

第五、本件ニ付テハ問題カ極メテ抽象的ナルヲ以テ概括的ニ之ヲ論スルコトヲ得ス各種ノ場合ヲ分チテ考フルノ外ナシ

一、個人ノ行為 自国民タル個人ノ外国人ニ對スル行為ニ関シテハ該国国内法ノ定ムル所ニ依リ処罰スルヲ以テ足ルヘシ但シ国家カ故意又ハ過失ニ依リテ斯カル手段ヲ執ラス又ハ特ニ偏頗ナル処置ヲ執リタルコト明ナル場合ニ於テハ被害者ノ所属国ハ自国民保護ノ基本的權利ニ基キテ犯人所屬国ニ對シ責任ヲ問フコトヲ得ヘク即此ノ場合ニ於テハ犯人所屬国ハ責任ヲ負ハサルヘカラス若夫レ其責任ノ範圍ニ至リテハ個々ノ事例ニ付テ之ヲ論スルノ外ナシ

二、国家機關ノ行為 国家機關ノ権限内ノ行為ニシテ外

国人ノ権利ヲ侵害シタル場合ニ於テモ是亦国内事項トシテ内国人ニ対スルト等シク行政上其ノ他ノ救済手段ヲ講スルヲ要スルニ止マリ国家カ国際法上特別ノ責任ヲ負フコトナカルヘシ唯右ノ如キ措置ヲ執ラサルカ如キ場合ニ於テ国家ハ責任ヲ生スルコト一ノ場合ト同様ナリ

（右外人ニ対スル国家機関ノ行為ニシテ直接ニ右外人ノ属スル国家ノ権利ヲ侵害スルモノナルニ於テハ国際違反トシテ責任ヲ負ハサルヘカラサルコトナルヘシ）

（付記二）

伊国・ギリシャ紛争事件ニ関連シテ生ジタル法律問題ニ対スル訓令案（国際連盟係）

一、（第一案―否定説） 第一問ノ提出セラレタル趣旨ハ之ヲ肯定的ニ解スルトキハ理事会ニ於テ国交断絶ニ至ルノ虞ナシト認定シタル場合ニ事件ヲ却下スヘキヤ否ヤノ問題ヲ生スルカ為ナリト存セラルル処右ノ虞アリヤ否ヤノ認定ハ頗ル困難ナルノミナラス規約第十五条カ第一項ニ於テ当事国ノ一方ノミヨリ事件ノ付託ヲ為シ得ルコト

（四） 若シNoト解スルトキハ濫訟ノ弊ヲ招クノ虞アリ帝國ノ如キハ此ノ点ニ於テ政策上肯定的解決ノ有利ナルヲ見ル

（ハ） 第十六条ノ改正規定ハ理事会ハ規約違反ノ有無ニ関シ意見ヲ述フヘキモノトセリ唯此ノ場合ハ連盟各国カ違反ノ有無ニ関シ最後ノ決定ヲ為スモノナリト雖モ右ハ経済封鎖ヲ行フモノカ理事会ニ非スシテ連盟各国自体タルノ当然ノ結果ナリ故ニ第十五条ノ如ク審理ヲ為スモノカ理事会自身ナルトキハ右第十六条ノ場合ト比較シ国交断絶ノ虞アリヤ否ヤハ理事会自ラ第一ニ之ヲ決定スルコトヲ要スヘシ

二、当事国双方若ハ事件ヲ付託シタル国ヨリ審理中止ノ請求アリタルトキ又ハ相手方ヨリ右請求アリ之ニ対シ付託国力異議ヲ申立テサルトキハ理事会ハ其ノ審理ヲ中止スルコトヲ要スルモ其ノ他ノ場合ニ於テハ中止ノ義務ナキモノト解セラル

三、（第一案―肯定説） 連盟国ハ第十五条第一項ニ依リ国交断絶ニ至ルノ虞アル紛争ニシテ第十三条ノ仲裁裁判ニ付セラレサルモノハ之ヲ理事会ニ付託スヘキコトヲ一

ヲ認め又第三項ニ於テ理事会ハ先ツ紛争ノ解決ニ努力スヘク第四項ノ定ムルカ如キ措置ハ右努力カ効ヲ奏セサルトキ始メテ執ルヘキモノト為シタルノ点ニ鑑ミルトキハ同条ハ一旦理事会ニ付託セラレタル事件ニ関シテハ理事会ニ於テ紛争カ實際国交断絶ニ至ルノ虞ナシト認定シタル場合モ尚之カ審理ヲ為スヘキモノトスルノ趣旨ト解セラレ他方又事件ノ却下ヲ為シ得ルモノトスルモ却下後紛争カ理事会以外ニ於テ果シテ円満ナル解決ニ達シ得ルヤ否ヤハ頗ル疑ナキヲ得ス故ニ本問題ハ之ヲ否定のニ解スルコト妥当ナルヘシ

一、（第二案―肯定説） 第一問ノ提出セラレタル趣旨ハ之ヲ肯定的ニ解スルトキハ理事会ニ於テ国交断絶ニ至ルノ虞ナシト認定シタル場合ニ事件ヲ却下ノ問題ヲ生スルカ為ナリト存セラルル処本問題ニ対シテハ左ノ理由ニ依リYesト回答スルコト妥当ナリト認めム

（イ） 紛争カ国交断絶ニ至ルノ虞アルモノナルコトハ事件審理ノ基礎条件ナルカ故ニ理事会ニ於テ事件ノ審理決定ヲ為スカ為ニハ単ニ一当事国ノミノ認定ヲ以テハ足ラサルヘシ

般的ニ約セルモノナルヲ以テ若シ規約ノ明文ヲ待タスンテ理事会ノ審理ヲ排除スルコトヲ得ルモノトセハ規約ニ斯クノ如キ紛争処理ノ方法ヲ定メタル趣旨ハ没却セラルヘク此ノ意味ニ於テ同条第八項ノ例外ハ制限のモノナリト解セラルル故ニ同項ニ基ク異議ハ唯一ノモノナリト認ムルヲ正当トス

紛争解決ニ関シ特殊ノ約定ヲ結フコトハ規約ノ禁止スル所ニ非サルカ故ニ右約定ノ当事国間ニ於テハ予メ右約定ノ規定スル解決方法ニ依ルヲ要スヘク予メ之ニ依ラスシテ一方カ事件ヲ理事会ニ付託シタルカ如キ場合ハ相手方ハ右約定ニ基キ理事会審理ノ権限ハ第二次ノモノナル旨ヲ主張シ得ヘキモ如何ナル場合ニ於テモ絶対ニ右約定ノミニ依ルヘク理事会ニハ全然権限無シト為スハ規約第十五条等ノ規定ニ反スルモノト認めラル

三、（第二案―否定説） 紛争ノ解決ニ関シ特殊ノ約定ヲ為シ得ヘキコトハ第十二条等カ解決ノ方法ヲ限定セサル点及第二十一条ノ趣旨ニ依リ明白ナルヲ以テ右約定ニ於テ其ノ当事国間ノ紛争解決ニ関シテハ全然右約定ニノミ依ルヘキ旨ヲ定メタルカ如キ場合ニ於テハ理事会ノ審理

ヲ経ルノ要ナカルヘキヲ以テ斯カル場合ニハ右約定ニ基キ理事会ノ権限ヲ否定シ得ヘク從ツテ第十五条第八項ノ異議ヲ以テ唯一ノモノナリト解スルハ妥当ニ非サルヘシ

四、戦争行為ヲ構成スルモノニ非サル以上ハ規約第十二条等ノ手続ヲ履ムコトナクシテ強制手段ニ訴フルモ右規定ニ反スルモノト謂フコトヲ得サルヘシ即強制手段ヲ執リ之ニ依リテ相手方ノ反省ヲ求メ以テ外交手段ニ依ル解決ヲ促進スルカ如キハ何等前記規定ノ禁止スル所ニ非スト解ス唯右ノ如ク解釈スルトキハ強制手段ノ濫用ヲ誘致スルノ虞アルヲ以テ之カ防止ノ為メ適當ノ方法ヲ講スルノ必要アルヘキノミ

五、犯罪ニ関シ事前ニ於テ国家ニ故意過失アリ又ハ事後ニ於テ犯罪ノ処分ニ関シ国内法令ノ定ムル所ニ依リ公平ナル措置ヲ執ラサル場合ニ於テノミ国家ニ責任アリト認ムヘク其ノ範圍ニ関シテハ箇々ノ場合ニ付之ヲ決定スルノ外ナカルヘシ

一、国交断絶ニ至ルノ虞アルモノトシテ連盟国力規約第十五条ニ依リ理事会ノ審査ヲ請求シタル場合ニ於テ何等右事由ニ付争ヲ生セサル場合ニハ理事会ハ特ニ国交断絶ニ

テ見ルニ大使會議ハ講和条約ノ解釈並實施ヲ其任務トスルモノナルニヨリ大使會議ニ持出シタルノ故ヲ以テ連盟理事会ニ権限ナシトスル伊国ノ主張ハ理由ナキモノト認メラル

四、明ニ戦争行為ヲ構成スルモノニ非サル以上規約十二条等ノ手続ヲ履ムコトナクシテ強制手段ニ訴フルモ右規定ニ反スルモノト謂フコトヲ得サルヘキモ其手段カ戦争ヲ誘発シ又ハ必要ナル程度ヲ超ユルモノナルコト能ハサルハ勿論又此手段ハ連盟ノ趣旨ニ鑑ミ之ヲ濫用セサル様充分注意スルノ義務アルモノト認メラル

五、犯罪ノ抑圧又ハ其ノ処分ニ関シ国家ニ怠慢アリタル場合ニ於テハ国家ニ於テ責任アリト認ムヘク特ニ政治的犯罪ニ関スル責任ニ付テハ一般犯罪ノ場合ニ於ケルヨリモ国家カ其国情例ヘハ民度並政情ノ如何ニ依リ必要ナル注意ヲ加ヘタリヤ否ヤヲ審査スルコトヲ要スルモノト認ム而シテ責任ノ範圍ハ上記ノ標準ニ依リ箇々ノ場合ニ付之ヲ決定スルノ外ナカルヘシ

一、国交断絶ニ至ルノ虞アルモノトシテ連盟国力規約第十五条ニ依リ理事会ノ審査ヲ請求シタル場合ニ於テ何等右

至ルノ虞アルヤ否ヤヲ審査スルヲ必要トセス進ンテ事件自体ノ審議ニ入ルコトヲ得ヘシ然レトモ若シ他ノ当事国カ此点ニ付争フ場合ニ於テハ理事会ニ於テモ先ツ之ニ付意見ヲ決定スルヲ要スヘシ若シ然ラストセハ實際危機ヲ合マサル政治問題ヲモ一國ノ利益ノ為ニ任意ニ提起シ得ルノ結果トナリ從ツテ不当ニ他方ノ利益ニ反スル結果トナルヘシ

二、当事国ノ双方ヨリ審理中止ノ請求アリタルトキ又ハ一方ヨリ右請求アリ之ニ対シ他方カ異議ヲ申立テサルトキハ理事会ハ其ノ審理ヲ中止スルコトヲ要スルモ其ノ他ノ場合ニ於テハ中止ノ義務ナキモノト解セラル

三、規約第十五条第八項以外ノ場合ニ於テモ規約第二十一条ニ於テ仲裁裁判条約ノ如キ國際約定又ハ地域的の了解ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスルモノノ効力ヲ認メ居ル關係上理事会ノ審査権限ヲ争ヒ得ヘキ異議ハ必スシモ前記第十五条第八項ノ場合ノミニ限ルコト能ハサルヘク第二十一条ニ規定スル約定又ハ了解ノ存スル場合ニ問題生スルトキハ連盟ノ精神ト其約定又ハ了解ノ趣旨トヲ考量シテ其都度決定スヘキモノト解セラル（伊希紛争ノ場合ニ付

事由ニ付争ヲ生セサル場合ニハ理事会ハ国交断絶ニ至ルノ虞アルヤ否ヤヲ審査スルヲ必要トセス進ンテ事件自体ノ審議ニ入ルコトヲ得ヘシ然レトモ若シ他ノ当事国カ此点ニ付キ争フ場合ニ於テハ理事会ニ於テモ先ツ之ニ付意見ヲ決定スルヲ要スヘシ若シ然ラストセハ實際危機ヲ含マサル政治問題ヲモ一國ノ利益ノ為ニ任意ニ提起シ得ルノ結果トナリ從ツテ他方ノ利益ニ反スル結果トナルヘシ

二、当事国双方ヨリ審理中止ノ請求アリタルトキ又ハ一方当事国ヨリ右請求アリ之ニ対シ他ノ当事国異議ヲ申立テサルトキハ理事会ハ其ノ審理ヲ中止スルコトヲ要スルモ其ノ他ノ場合ニ於テハ中止ノ義務ナキモノト解セラル

三、規約第十五条第八項以外ノ場合ニ於テモ規約第二十一条ニ於テ仲裁裁判条約ノ如キ又ハ地方的条約ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスル条約ハ之ヲ承認シ居ル次第ナレハ斯ル条約ノ規定ニヨル解決方法ヲ採ル場合（例ヘハ四國条約ノ場合ノ如キ）ニ於テハ規約ハ理事会ニ於テハ紛争解決ノ権限ナキモノト認メタルモノト解セラル但シ之等特殊条約ノ規定スル紛争解決方法ニ依リテモ当事件解決ニ

至ラス而カモ充分理事会ニ提出シ得ル猶予アルカ如キ場合ニ於テハ連盟ノ精神ニ鑑ミ連盟国ハ之ヲ理事会ニ提出スルノ義務アリト解ス

四、戦争行為ヲ構成スルモノニ非サル以上ハ規約第十二条等ノ手續ヲ履ムコトナクシテ強制手段ニ訴フルモ右規定ニ反スルモノト謂フコトヲ得サルモ其手段ニ訴フルニ当リテハ連盟国ニ於テモ充分連盟ノ趣旨ヲ察シ濫用セサル様注意スルノ義務アルモノト認メラル

五、一般犯罪ニ関シ故意過失アリ又ハ犯罪ノ処分ニ関シ公正ナル措置ヲ執ラサル場合ニ於テ国家ニ責任アリト認ムヘク如何ナル場合ニ於テ故意又ハ過失アリシヤハ其国ノ国情例ヘハ民度政情等ヲ参酌スルヲ要スヘキモノニシテ特ニ政治的犯罪ニ於テハ国家ハ国情ニヨリ其予防ニ対シ充分注意警戒ヲ加フルコトヲ要スルモノト認ム而シテ其責任ノ範圍ニ関シテハ箇々ノ場合ニ付之ヲ決定スルノ外ナカルヘシ

一、第一問ノ提出セラレタル趣旨ハ之ヲ肯定的ニ解スルトキハ理事会ニ於テ国交断絶ニ至ルノ虞ナシト認定シタル場合ニ事件却下ノ問題ヲ生スルカ為ナリト存セラルル処

ニ依リ明白ナリ而シテ右約定ノ内容如何ニ依リテハ当該当事国間ニ於ケル紛争ヲ必スシモ理事会ニ付託スルノ義務ナキコトアルヘキヲ以テ斯カル場合ニハ右約定ニ基キ理事会ノ権限ヲ争ヒ得ヘク從テ第十五条第八項ノ異議ヲ以テ唯一ノモノト解スルハ妥当ニ非サルヘシ

四、本問題ハ規約第十二条等ノ規定ト從來國際法上認メラレタル紛争処理ノ強制手段タル復仇等トノ關係如何ニ依リテ解釈ヲ異ニスルモノト認メラルル処例ヘハ此等強制手段ニ依リ相手方ノ反省ヲ促シ以テ外交手段ニ依リ紛争ノ解決ヲ容易ナラシムルカ如キハ右手段カ戦争行為ヲ構成スルモノニ非サル以上前記規定ノ趣旨ニ反スルコトナシト解セラル

五、犯罪ノ抑圧又ハ其ノ処分ニ関シ国家ニ怠慢アリタル場合ニ於テノミ責任アリト認ムヘキモ今回ノ如キ政治的犯罪ニアリテハ怠慢ノ有無ヲ定ムルニ付特ニ犯行當時ニ於ケル犯人所屬国ノ国情等ヲ斟酌スルノ必要アルヘシ此ノ点ニ関シテハ箇々ノ場合ニ付認定スルノ外ナシト思惟ス責任ノ範圍ニ関シテモ亦同様ナリ

編註 本訓令案ガコノママ又ハ訂正ノ上發電サレタカ否カハ

本問題ニ対シテハ左ノ理由ニ依リ、ト回答スルコト妥当ナリト認ム

(i) 紛争カ国交断絶ニ至ルノ虞アルモノナルコトハ事件審理ノ基礎条件ナルカ故ニ理事会ニ於テ事件ノ審理決定ヲ為スカ為ニハ右事実ハ当事国ノミノ認定ニ委スルコトナク理事会自ラ之ヲ決定スルノ要アルヘシ

(ii) 若シ否定的ニ解スルトキハ濫訟ノ弊ヲ招クノ虞アリ即理事会カ一方当事国ノ付託ニ係ル紛争ハ其ノ国交断絶ニ至ルノ虞アリヤ否ヤヲ問ハス總テ之ヲ審理セサルヘカラサルモノトセハ他ノ方法ニ依リ解決シ得ヘキモノモ勢ヒ理事会ニ提訴セラレ反テ紛争ヲ誘発又ハ拡大スルノ結果トナルヘシ帝國ノ如キハ支那トノ關係ニ付此ノ点ニ於テ肯定的解釈ノ有利ナルヲ見ル

二、当事国ノ双方ヨリ審理中止ノ請求アリタルトキ又ハ一方ヨリ右請求アリ之ニ対シ他方カ異議ヲ申立テサルトキハ理事会ハ其ノ審理ヲ中止スルコトヲ要スルモ其ノ他ノ場合ニ於テハ中止ノ義務ナキモノト解セラル

三、紛争ノ解決ニ関シ特殊ノ約定ヲ為シ得ヘキコトハ第十二条等カ解決ノ方法ヲ限定セサル点及第二十一条ノ趣旨

明ラカデナイ。尚十二月二十八日在ベルギー国安達大使宛發電報第二六四号編註参照。

三五六 十二月二十八日 在ベルギー国安達大使ヨリ伊集院外務大臣宛（電報）

伊国・ギリシャ事件關係法律家會議ニ於テ討

議サルベキ問題ニ関シ意見内示方要請ノ件

付記 大正十三年一月十八日在ジュネーヴ安達代表ヨリ

松井外務大臣宛電報第一号

伊国・ギリシャ事件關係法律家會議開催ノ件

第二六四号 (十二月二十九日接受)

貴電第一〇二号ニ関シ

本件會議ノ際ハ「セシル」卿ノ外三月連盟理事会ノ議長タルヘキ当地駐在「ウルグアイ」公使「グアニ」本件カ同理事会ノ主要議題タルニ顧ミ全ク個人ノ資格ニテ寿府ニ赴ク由同公使ヨリ内話アリ尚本件ニ関シテハ瑞典委員「ウンデ」伯刺西爾委員「クラーク」連盟法務部長「バン・ハメル」等ヨリ既ニ内々意見書ヲ回付シ来リ白耳義委員「ド・ビスケル」ハ度々本使ヲ來訪シ意見ヲ述ヘタリ「ウルグアイ」法律家ノ主張スヘキ意見書モ内覽ヲ遂ケ各國ノ意向モ漸次明瞭トナリ來レル処貴電第一〇二号中(一)及(四)ニ付左ノ

点御内示ヲ得ハ好都合ト存ス

(二)ニ関シ御来示ノ趣旨ニ関シ当事国双方ノ合意アラハ理事會ノ審査ハ之ヲ拒否シ得ルノ結果トナルモノト解セラルル処斯テハ第十五条第一項ニ当事国カ国交断絶ニ至ルノ惧アル紛争ヲ理事會ノ審議ニ付スヘキ義務アルコトヲ定メタルト矛盾シ從テ第三回連盟總會ニテ採択セラレタル本使ノ議長タリシ調停手續研究委員會ノ報告トモ矛盾スル処アリ之右ノ義務ヲ強調スル「ウンデン」「バン・ハメル」等ヨリ極力ノ反対ヲ招クヘク彼等ノ反対ハ純法律論トシテハ各法律家ノ傾聴スル処トナルヘキカ故ニ之ヲ排除スヘキ理由御内示ヲ仰ク

(四)ニ関シ會議ニ於テハ『明ニ戦争行為ヲ構成スル強制手段』トハ如何ナルモノナリヤニ付種々討論セラルルモノト観測セラルル処英國 Pollok ハ十月十日ノ「タイムス」ニ其所説ヲ掲ケ復仇、兵事封鎖又ハ之ニ類似ノ強制手段ハ明ニ戦争行為ナリト論シ之ト同一ノ意見ヲ有スル学者多ク又「ウンデン」「クラーク」等ハ規約ト兩立スル強制手段ハ他ノ對手国ノ反撃ニ依リ戦争状態ヲ引起スコトナキ經濟的措置ノミナリトノ意見ニシテ独国「ウエーベルグ」モ同一ノ

ヨリ提議アリ仏国及伊国委員ノ賛成アリ満場一致ヲ以テ本使ヲ議長ニ推シ議事ハ総ベテ秘密ニ付スル事並ニ議事録ヲ作ラザル事ト定メ直ニ第一問ニ関スル討議ニ入りabc順ニ依リ本使先ヅ意見ヲ述べ各員之ニ倣ヒ午後一時散會セリ議事ハ毎日二回之ヲ催シ成ルベク速ニ終了セシムル事ト為

意見ヲ公表セリ就テハ明ニ戦争行為ヲ構成スル強制手段ト

ハ砲撃ノミヲ指示セラルルモノナリヤ又ハ單ナル占領モ之ニ包含セシメラルル意ナリヤ其他各場合ニ関シ詳細御内示ヲ仰ク尚本件ニ付本月二十一日仏首相ハ下院ニ於テ社会党領袖ノ質問ニ対シ『余ハ連盟理事會カ「コルフ」事件ニ付権限ナキモノト思考シ又ハ声明シタルコトナク却テ其完全ナル権限アル旨ヲ或人ニ対シ書面ニテ述ヘタル程ナリ』ト答ヘタルハ当国有識者ノ注意ヲ惹ケリ在仏大使ヘ暗送セリ

編註

本電冒頭ニ引用ノ外務大臣発在ベルギー国安達大使宛電報第一〇二号見当ラザルトコロ、右内容ハ前掲ノ外務省國際連盟係作成ノ十一月二十四日付伊国・ギリシャ紛争事件ニ関連シテ生ジタル法律問題ニ対スル訓令案ノ内容ト關係ガアルモノカトモ考エラレル。

(付記)

大正十三年一月十八日在ジュネーヴ安達代表ヨリ松井外務大臣宛電報第一号
伊国・ギリシャ事件關係法律家會議開催ノ件

第一号

(一月十九日接受)

十八日朝連盟事務局ニ於テ伊希事件關係法律家會議第一回ヲ開ク本使ヲ議長ニ為シ度旨英國「ロード・バクマスタ」

セルガ各員ノ態度概シテ良好ナリ今後ハ一段落ヲ告ゲタル際ニノミ電報スベシ

仏、伊、英、白ヘ転電セリ